（様式第10）

５ 管理 第 69 号

令和 5 年 10 月 5 日

厚生労働大臣 殿

開設者名 公立大学法人 名古屋市立大学
理事長 郡 健二郎

名古屋市立大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3第1項及び医療法施行規則（昭和23年厚生省令第50号）第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和 年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒467-8602 愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地
氏名	公立大学法人 名古屋市立大学

（注） 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

名古屋市立大学病院

3 所在の場所

〒467-8602 愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地
電話（052） 851 ー 5511

4 診療科名

4ー1 標榜する診療科名の区分

○	1	医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
	2	医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

（注） 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

（1）内科

内科						有	
内科と組み合わせた診療科名等							
	1呼吸器内科	○	2消化器内科	○	3循環器内科	○	4腎臓内科
	5神経内科		6血液内科		7内分泌内科		8代謝内科
	9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科			○	11リウマチ科
診療実績							
・呼吸器内科およびアレルギー疾患内科は、呼吸器・アレルギー疾患内科で主に診療している。 ・血液内科は、血液・腫瘍内科で主に診療している。 ・内分泌内科および代謝内科は、内分泌・糖尿病内科で主に診療している。							

（注） 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2)外科

外科	有

外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科	○	2消化器外科	○	3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科	○	8小児外科

診療実績
・内分泌外科については、耳鼻咽喉科および泌尿器科で主に診療している。

(注)　1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3)その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

(注)　標榜している診療科名に○印を付けること。

(4)歯科

歯科	無

歯科と組み合わせた診療科名					
	1小児歯科		2矯正歯科	○	3歯科口腔外科

歯科の診療体制

(注)　1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5)(1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	肝臓内科	2	膵臓内科	3	呼吸器・アレルギー疾患内科	4	内分泌・糖尿病内科	5	血液・腫瘍内科
6	脳神経内科	7	形成外科	8	小児泌尿器科	9	リハビリテーション科	10	病理診断科
11	臨床検査科	12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

(注)　標榜している診療科名について記入すること。

5　病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
28	0	0	0	772	800

(単位:床)

6　医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	304	200	504
歯科医師	5	8.4	13.4
薬剤師	59	0.7	59.7
保健師	0	0	0
助産師	59	0	59
看護師	918	28.6	946.6
准看護師	0	0.5	0.5
歯科衛生士	4	1.7	5.7
管理栄養士	10	2.9	12.9

職種	員数
看護補助者	82
理学療法士	16
作業療法士	4
視能訓練士	4
義肢装具士	0
臨床工学士	19
栄養士	0
歯科技工士	1
診療放射線技師	48

職種		員数
診療エックス線技師		0
臨床検査	臨床検査技師	71
	衛生検査技師	0
	その他	0
あん摩マッサージ指圧師		0
医療社会事業従事者		10
その他の技術員		28
事務職員		236
その他の職員		2

（注）　1　報告書を提出する年度の10月１日現在の員数を記入すること。
2　栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7　専門の医師数

専門医名	人数（人）	専門医名	人数（人）
総合内科専門医	63.9	眼科専門医	7.7
外科専門医	49.8	耳鼻咽喉科専門医	15.9
精神科専門医	10.9	放射線科専門医	15
小児科専門医	24.3	脳神経外科専門医	11
皮膚科専門医	7	整形外科専門医	22.8
泌尿器科専門医	17.9	麻酔科専門医	25
産婦人科専門医	18.9	救急科専門医	10
		合計	300.1

（注）　1　報告書を提出する年度の10月１日現在の員数を記入すること。
2　人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8　管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名　（　間瀬　光人　）　任命年月日　令和　3　年　4　月　1 日

平成17年～18年　医療安全管理室副室長
平成13年5月～　医療事故防止等検討委員会（平成27年～医療安全管理委員会）委員

9　前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	599.1　人	6.1　人	605.2　人
1日当たり平均外来患者数	1749.9　人	75　人	1824.9　人
1日当たり平均調剤数	1423　剤		
必要医師数	162　人		
必要歯科医師数	5　人		
必要薬剤師数	21　人		
必要（准）看護師数	369　人		

（注）　1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
2　入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
3　外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
4　調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
5　必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二条の二の算定式に基づき算出すること。

10　施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	401.67 ㎡	S造 一部SRC/RC造	病床数	16 床	心電計	有
			人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
			その他の救急蘇生装置	有	ペースメーカー	有
無菌病室等	［固定式の場合］	床面積	268.45 ㎡	病床数	17 床	
	［移動式の場合］	台数	0 台			
医薬品情報管理室	［専用室の場合］	床面積	62.81 ㎡			
	［共用室の場合］	共用する室名				
化学検査室	520.9 ㎡	S造 一部SRC/RC造	（主な設備）	検体検査システム		
細菌検査室	123.15 ㎡		（主な設備）	微生物検査システム		
病理検査室	221.79 ㎡		（主な設備）	病理標本染色封入システム		
病理解剖室	81.18 ㎡	S・SRC造	（主な設備）	解剖台、臓器撮影台、滅菌装置（UV）		
研究室	193.13 ㎡	S造 一部SRC/RC造	（主な設備）	クリーンベンチ、オートクレーブ滅菌装置		
講義室	401.9 ㎡		室数	1 室	収容定員	320 人
図書室	96.98 ㎡		室数	2 室	蔵書数	5800 冊程度

（注）　1　主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2　主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11　紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	82.9 %	逆紹介率	83.6 %
算出根拠	A：紹介患者の数	15,950	人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数	18,452	人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数	2,330	人
	D：初診の患者の数	24,740	人

（注）　1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3　A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 （○を付す）	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
宮本 忠壽	知多厚生病院名誉院長	○	医療安全に関する業務に従事した経験を持つ医師	無	1
吉野 彩子	後藤・太田・立岡法律事務所所属弁護士		法律に関する識見を有する者	無	1
岩崎 良平	日本ガイシ株式会社代表取締役副社長		医療を受ける者の立場から意見を述べることができる者	無	2
蘆原 千晶	中日新聞記者		医療を受ける者の立場から意見を述べることができる者	無	2

（注）　「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法 公表の方法：病院ホームページにて公表している https://w3hosp.med.nagoya-cu.ac.jp/section/central/anzen-kanri/externalauditor/	

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

1　承認を受けている先進医療の種類（注1）及び取扱患者数

先　進　医　療　の　種　類	取扱患者数（人）
腹腔鏡下膀胱尿管逆流防止術	10
タイムラプス撮像法による受精卵・胚培養	101
先進医療の種類の合計数	2
取扱い患者数の合計（人）	111

（注）1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準（平成二十年厚生労働省告示第百二十九号）第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

（注）2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類（注1）及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
先進医療の種類の合計数	0
取扱い患者数の合計（人）	0

（注）1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準（平成二十年厚生労働省告示第百二十九号）第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

（注）2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	金属ステント（Hot axiosシステム）を用いた超音波内視鏡胃空腸吻合術	取扱患者数	2 人
当該医療技術の概要 EUS下瘻孔ドレナージは現在、ドレナージが必要な急性膵炎にともなう局所合併症（膵仮性嚢胞、被包化壊死など）の患者に対し、消化管と嚢胞内腔に人工的な瘻孔を形成させドレナージを行う事が保険診療内に可能である。ボストン社製のHot AXIOSシステムでのLAMS（lumen apposing metal stent）を用いることで、両側のフランジにより二つの管腔を引き寄せることができるものである。その手技を応用し、胃と閉鎖空腸との吻合を行うEUS下胃空腸吻合術（EUS-GJ）を実施。			
医療技術名	経カテーテル的大動脈弁置換術	取扱患者数	38人
当該医療技術の概要：高齢、あるいは他の疾患を患っているために従来の開胸による外科的大動脈弁置換術の適応とならな			
医療技術名	デバイスを用いた心臓再同期療法	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要：最適な薬物治療を受けているにもかかわらず、心不全が改善しない心臓伝導障害を有する低左心機			
医療技術名	経カテーテル的左心耳閉鎖デバイス挿入術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要：出血リスクが高く、抗凝固療法がためらわれる脳梗塞発症高リスク患者に対し、カテーテルを用いた左			
医療技術名	補助人工心臓管理	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要：外来での補助人工心臓の管理（多職種が携わるドライブライン感染評価、抗凝固療法、ポンプ管理、			
医療技術名	特発性拡張型心筋症（指定難病）に対する診療	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要：指定難病である特発性拡張型心筋症患者の外来ならびに入院管理。特定疾患書類管理を含む。			
医療技術名	肥大型心筋症（指定難病）に対する診療	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要：指定難病である肥大型心筋症患者の外来ならびに入院管理。特定疾患書類管理を含む。			
医療技術名	サルコイドーシス（指定難病）に対する診療	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要：指定難病であるサルコイドーシス患者（心臓病変を合併）の外来ならびに入院管理。特定疾患書類管			
医療技術名	肺動脈性肺高血圧症に対する診療	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要：指定難病である肺動脈性肺高血圧症患者の外来ならびに入院管理。特定疾患書類管理を含む。			
医療技術名	卵円孔開存（PFO)閉鎖術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要：奇異性脳塞栓症の確定診断例もしくは潜因性脳梗塞で原因としてPFOの関与が疑われる患者に対す			
医療技術名	トランスサイレチン型心アミロイドーシス（指定難病）に対する診療	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要：トランスサイレチン型心アミロイドーシス患者の外来ならびに入院管理。治療薬であるタファミジスは認			

医療技術名	造血幹細胞移植療法	取扱患者数	25人
当該医療技術の概要 自家および同種造血幹細胞移植療法は、造血器腫瘍治療において極めて重要な手段である。高度の骨髄抑制および免疫抑制に伴う合併症管理が治療成績を左右し、多臓器にわたる専門的な管理が必要であるため、チーム医療を学ぶ良い機会となる。			
医療技術名	キメラ抗原受容体T細胞療法（CAR-T細胞療法）	取扱患者数	16人
当該医療技術の概要 CAR-T細胞療法は、患者さんからリンパ球（T細胞）を採取した後に、キメラ抗原受容体（Chimeric Antigen Receptor: CAR）という人工的な分子を導入することでがん細胞を直接攻撃するようにT細胞を遺伝子改変し患者さんに戻してがんを攻撃する新たな免疫・細胞療法です。当院は中部地区では数少ないCAR-T細胞療法の提供可能施設です。			
医療技術名	Lドパ持続経腸療法	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 進行期パーキンソン病患者に対する運動症状の改善を目的に、胃瘻から小腸上部へチューブを留置し、ゲル状のLドパ製剤をポンプにて持続的に投与する治療			
医療技術名	経皮的腎生検	取扱患者数	約50人
当該医療技術の概要　急速進行性糸球体腎炎やネフローゼの原因鑑別に必須である。			
医療技術名	持続緩徐式血液濾過透析	取扱患者数	約30人
当該医療技術の概要　敗血症性ショックや心原性ショックの患者さんで腎不全を伴う患者に集中治療室で施行			
医療技術名	特殊血液浄療法（血漿交換、エンドトキシン吸着、白血球吸着療法など）	取扱患者数	約30人
当該医療技術の概要　重症の自己免疫性疾患、敗血症性ショックなどに対して行われる体外循環を伴う治療方法			
医療技術名	膵頭十二指腸切除術	取扱患者数	21人
当該医療技術の概要 膵頭部癌または遠位部胆管癌、十二指腸乳頭部癌などに対して胃のほぼ全てを温存させたうえで、膵頭部、十二指腸、胆嚢、胆管を合併切除し、空腸を用いて再建している。			
医療技術名	腹腔鏡下（ロボット支援を含む）膵頭十二指腸切除	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 膵頭部癌または遠位部胆管癌、十二指腸乳頭部癌などに対して胃のほぼ全てを温存させたうえで、膵頭部、十二指腸、胆嚢、胆管を合併切除し、空腸を用いて再建している。これを腹腔鏡（ロボット支援を含む）で施行.			
医療技術名	腹腔鏡下（ロボット支援を含む）膵体尾部切除術	取扱患者数	21人
当該医療技術の概要 良性または低悪性度膵体尾部腫瘍に対して腹腔鏡（ロボット支援を含む）で膵体尾部切除を行っている。			
医療技術名	Frey手術	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 良性または低悪性度膵体尾部腫瘍に対して腹腔鏡（ロボット支援を含む）で膵体尾部切除を行っている。			
医療技術名	腹腔鏡下肝切除術（ロボット支援下を含む）	取扱患者数	49人
当該医療技術の概要 肝切除を腹腔鏡下（ロボット支援を含む）で行っている.			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下結腸切除術	取扱患者数	60人
当該医療技術の概要 da Vinciとhinotoriを用いてロボット支援下に結腸切除術を施行している。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下大腸全摘術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 腹腔鏡を用いて大腸を全摘出し、肛門と回腸を吻合する。主に潰瘍性大腸炎・家族性大腸ポリポーシスに対して施行している。			

医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下骨盤内臓全摘術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 多臓器に浸潤した直腸癌・S状結腸癌に対してロボットを用いた腹腔鏡手術で骨盤内の臓器を合併切除している。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下前立腺合併直腸切除術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 ロボット支援下に腹腔鏡を用いて前立腺合併直腸切除術を施行している。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下直腸切除術	取扱患者数	60人
当該医療技術の概要 da Vinciとhinotoriを用いてロボット支援下に直腸切除術を施行している。			
医療技術名	腹腔鏡下食道アカラシア手術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 アカラシア手術を腹腔鏡下にて安全に施行している。本年度は該当患者がなかった。			
医療技術名	胸腔鏡下食道亜全摘出術	取扱患者数	35人
当該医療技術の概要 切除可能食道癌に対して胸腔鏡・腹腔鏡下食道亜全摘術を安全に施行している。			
医療技術名	ロボット支援下食道亜全摘術	取扱患者数	25人
当該医療技術の概要 切除可能食道癌に対してロボット支援下食道亜全摘術を安全に施行している。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下下部食道噴門側胃切除術	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 切除可能食道胃接合部癌に対してロボット支援下に根治手術を行っている。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下幽門側胃切除術	取扱患者数	47人
当該医療技術の概要 胃癌に対するロボット支援下幽門側胃切除術を安全に行っている。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下噴門側胃切除術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 上部胃癌に対するロボット支援下噴門側胃切除術を行っている。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下胃全摘術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 胃癌に対する胃全摘術をロボット支援下に安全に行っている。			
医療技術名	気管支腫瘍・狭窄に対する気管支鏡下YAGレーザー治療	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要:気管支腫瘍・術後気管支狭窄に対し、気管支鏡下にYAGレーザー治療を行い、気管支を開存。			
医療技術名	ロボット支援下胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術	取扱患者数	58人
当該医療技術の概要:Davinciを使用した肺悪性腫瘍に対するロボット支援胸腔鏡下肺葉切除、区域切除術。			
医療技術名	ロボット支援下胸腔鏡下縦隔腫瘍摘出術	取扱患者数	28人
当該医療技術の概要:Davinciを使用した縦隔腫瘍に対する胸腔鏡下縦隔腫瘍摘出術。			

医療技術名	肺癌浸潤気管狭窄に対する気管支鏡下ステント留置術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要:肺癌の気管浸潤による気管狭窄に対し、ステント留置し気道を確保。			
医療技術名	腹腔鏡下鎖肛修復術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要:乳児の先天異常である鎖肛の腹腔鏡下修復術			
医療技術名	新生児先天性腸閉鎖症修復術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要:新生児の先天異常である腸閉鎖症の修復術			
医療技術名	乳児肝左葉切除術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要:乳児の肝芽腫に対する腫瘍切除術としての肝左葉切除術			
医療技術名	脊椎腫瘍骨全摘術	取扱患者数	4 人
当該医療技術の概要 特殊な器械を用いて展開し、脊髄を損傷することなく脊椎腫瘍骨を全摘出する国内もほとんどされていない手術			
医療技術名	自家液体窒素処理骨移植	取扱患者数	4 人
当該医療技術の概要 液体窒素に腫瘍のある骨を浸して腫瘍細胞を凍死させ、その骨を再建に用いる方法			
医療技術名	手術支援ロボット下　人工関節置換術	取扱患者数	45 人
当該医療技術の概要 ロボット支援下の手術で正確なインプラント設置ができる手術である			
医療技術名	全内視鏡下脊椎手術	取扱患者数	53 人
当該医療技術の概要 局所麻酔下に極細い内視鏡を使用し低侵襲脊椎手術で国内でも一部の施設のみでしか行っていない手術である			
医療技術名	精巣内精子回収法(TESE)により得られた精子を用いた顕微授精	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要　精巣内から直接得られた精子を用いた顕微授精をおこなうことにより、重症男性不妊症の患者が、生児を得ることが出来る。			
医療技術名	筋硬直性ジストロフィーに対する着床前遺伝学的検査	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要　遺伝性疾患である筋硬直性ジストロフィー罹患者カップルの胚に対して着床前遺伝学的検査を行うことにより、児への疾患の伝播を防ぐことが出来る。			
医療技術名	染色体相互転座に起因する習慣流産患者に対する着床前胚染色体構造異常検査(PGT-SR)	取扱患者数	21人
当該医療技術の概要　均衡型染色体相互転座を有する習慣流産症例の受精卵に対し、PGT-Aを行うことで流産を予防することができる。			
医療技術名	体外受精治療反復着床不成功症例あるいは不育症症例に対する着床前胚染色体異数性検査	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要　体外受精治療反復不成功症例あるいは不育症症例の受精卵に対し、PGT-Aを行うことで妊娠率が向上出来る。			
医療技術名	習慣流産患者の妊娠管理	取扱患者数	90人
当該医療技術の概要 習慣流産患者の診断、治療をおこない妊娠継続分娩管理をおこなう。			

医療技術名	重症妊娠高血圧症候群患者の管理	取扱患者数	60人
当該医療技術の概要 重症妊娠高血圧症候群の患者を、高度な集約的治療により、妊娠・分娩管理をおこなう。			
医療技術名	不育症患者に対する抗凝固療法	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 抗リン脂質抗体症候群は不育症の原因の1つであり、抗凝固療法（ヘパリン・アスピリン）により治療する。			
医療技術名	母体血胎児染色体検査	取扱患者数	800人
当該医療技術の概要 胎児染色体数的異常（21・18・13トリソミー）について母体血を用いて非確定的に診断する。			
医療技術名	前置胎盤・胎盤早期剥離などハイリスク妊婦に対する帝王切開術	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要 重圧な合併症を引き起こす可能性のある疾患である、高度な集約的治療により、妊娠・分娩管理をする。			
医療技術名	妊娠中期破水妊娠の管理	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要 妊娠中期の前期破水は母体のみでなく胎児にも大きな影響を与える。集約的な治療によって妊娠分娩管理をする。			
医療技術名	ロボット支援下腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術	取扱患者数	51人
当該医療技術の概要 手術支援ロボット「ダヴィンチ」を用いて手術治療を行う技術。			
医療技術名	ロボット支援下腹腔鏡下子宮全摘術	取扱患者数	33人
当該医療技術の概要 手術支援ロボット「ダヴィンチ」を用いて手術治療を行う技術。			
医療技術名	腹腔鏡下仙骨膣固定術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 手術支援ロボット「ダヴィンチ」を用いて手術治療を行う技術。			
医療技術名	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体癌に限る)	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 手術支援ロボット「ダヴィンチ」を用いて手術治療を行う技術。			
医療技術名	自己末梢血幹細胞移植併用大量化学療法	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 難治悪性腫瘍患者に対して抗腫瘍効果を高めるために大量化学療法を行い、造血機能抑制のサポートのために自家末梢血幹細胞移植を行う。			
医療技術名	人工内耳埋め込み術	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要 高度難聴の症例に対して人工内耳埋め込みとその後の聴覚リハビリテーションを行っている。			
医療技術名	鏡視下咽頭・喉頭悪性腫瘍手術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 早期の咽頭癌、喉頭癌に対する低侵襲手術として、経口腔的に内視鏡を用いた切除を行っている。			
医療技術名	甲状軟骨形成術II型	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要 痙攣性発声障害に対してチタンブリッジを挿入する音声改善手術を行っている。			

医療技術名	DRAF III 前頭洞手術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 慢性副鼻腔炎に対して内視鏡下に前頭洞を単洞化する手術を行っている。			
医療技術名	天疱瘡（指定難病）の治療	取扱患者数	89人
当該医療技術の概要：難治性天疱瘡へのリツキシマブ投与を含め、皮膚科専門医による専門的治療を行っている。			
医療技術名	膿疱性乾癬（指定難病）の治療	取扱患者数	58人
当該医療技術の概要：皮膚科専門医による膿疱性乾癬の専門的治療を行っている。			
医療技術名	表皮水疱症（指定難病）の治療	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要：皮膚科専門医による表皮水疱症の専門的治療を行っている。			
医療技術名	腹腔鏡下逆流防止術	取扱患者数	10人
先天性疾患である膀胱尿管逆流に対し、膀胱外アプローチで行う腹腔鏡手術である。先進医療Aとして厚生労働省が認めた高度な手術であり、全国でも数施設でしか行われていない高度な技術を必要とする手術である。			
医療技術名	腹腔鏡内精巣に対する腹腔鏡下精巣固定術	取扱患者数	15人
小児に対するより低侵襲な手術として腹腔鏡を全国に先駆けて取り入れ行っている。腹腔内からの精巣の観察ができ、開腹による手術の時の理解にもつながっている。			
医療技術名	膀胱尿管逆流に対するロボット支援腹腔鏡下膀胱尿管逆流防止術	取扱患者数	0人
先天性疾患である膀胱尿管逆流に対し、手術支援ロボット「ダヴィンチ」を用いて手術治療を行う技術。医師主導の臨床試験として院内の倫理審査委員会での承認のもとに施行している。従来の腹腔鏡手術に比べ、高精細な視野、自由度の高い鉗子を用い、手術成績の向上が期待される。本年度は施行症例はなかったが、継続していきたい。			
医療技術名	先天性水腎症に対するロボット支援腹腔鏡下腎盂形成術	取扱患者数	12人
先天性疾患である水腎症に対し、手術支援ロボット「ダヴィンチ」を用いて手術治療を行う技術。2020年4月から保険収載となった。従来の腹腔鏡手術に比べ、高精細な視野、自由度の高い鉗子を用い、手術成績の向上が期待される。			
医療技術名	高難度の泌尿生殖器の先天異常に対する手術治療	取扱患者数	0人
泌尿生殖器および下部消化管の複雑な先天異常疾患である、総排泄腔遺残（指定難病293）や膀胱外反症。総排泄腔外反（指定難病292）は、発生頻度が10-20万人に1人と希少疾患である。治療には尿路・生殖器・消化器など広い範囲で高難度の手術治療が必要となる。複数の関連各科と合同し手術治療を行い、安全に施行できている。			
医療技術名	尿道下裂に対する手術治療	取扱患者数	31人
尿道下裂は 250-300人に1人と比較的頻度の高い陰茎の先天異常である。軽度のものから性分化疾患を合併する非常に高度な症例まで幅ひろく存在し、当院へは高度の症例が多く紹介され、手術治療を行っている。当科で開発した手術方法を用いて、良好で安全な治療成績を得ている。			
医療技術名	先天性腎尿路異常に対する腹腔鏡下膀胱内手術	取扱患者数	2人
先天性腎尿路異常のうち、尿管瘤や異所性尿管などの先天性疾患に対し、膀胱内に直接トロカーを挿入して炭酸ガスを送気して手術を行う腹腔鏡下膀胱内手術を行う技術である。気膀胱手術とも呼ばれる。従来の開放手術にくらべ創が小さく、低侵襲に行うことができる。			
医療技術名	児童外来	取扱患者数	1400人
当該医療技術の概要 児童・思春期に特有な疾患について個人精神療法を中心を行う。			
医療技術名	サイコオンコロジー	取扱患者数	500人
当該医療技術の概要 がん患者とその家族に対して、支持的精神療法を基本としつつ、がんという疾患の特性を良く理解し、患者の苦痛を包括的に評価し、多職種と協働しながら精神心理的支援を提供する。			

医療技術名	難治性てんかんの診断と治療	取扱患者数	300人
当該医療技術の概要 難治性てんかんの診断精査として、入院で終夜脳波などの発作時ビデオ脳波同時記録を行っている。治療として、 入院・外来で抗てんかん薬による薬物療法および迷走神経刺激療法(VNS)を行っている。			
医療技術名	修正型電気けいれん療法	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 これまでに数種類の抗うつ薬を十分量、十分期間服用しても改善の得られない難治性うつ病や、副作用のために薬物治療を行えない治療抵抗性うつ病、高齢者のうつ病に対しては、修正型電気けいれん療法を麻酔科の協力を得て行う。			
医療技術名	神経性やせ症の低体重に対する入院治療プログラム	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 低体重で入院を要する神経性やせ症患者に対して、精神科病棟で身体的な安全を確保しながら栄養療法を実施するものである。体重を増加させるだけでなく、治療全体の中で家族とともに心理的な回復も目指しながら評価・対応を行う。			
医療技術名	反復経頭蓋磁気刺激療法	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 薬物抵抗性うつ病に対して、実施される反復経頭蓋磁気刺激療法（rTMS療法）。ECTとは異なり、電磁力を利用して、うつ病の回復を促す。			
医療技術名	脳深部刺激療法	取扱患者数	16人
当該医療技術の概要 指定難病であるパーキンソン病に対し電極を埋め込み日内変動を改善させるための治療法			
医療技術名	多血小板フィブリン（PRF：Platelet Rich Fibrin）を用いた歯槽骨造成	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要：インプラント治療の際の骨再生誘導法に使用する骨補填材に骨造成促進を目的に自己血から作成したPRFを混和する。			

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾　患　名	患者数		疾　患　名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	5	71	特発性大腿骨頭壊死症	45
2	筋萎縮性側索硬化症	12	72	下垂体性ADH分泌異常症	33
3	脊髄性筋萎縮症	5	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
4	原発性側索硬化症	0	74	下垂体性PRL分泌亢進症	0
5	進行性核上性麻痺	10	75	クッシング病	25
6	パーキンソン病	497	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
7	大脳皮質基底核変性症	3	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	5
8	ハンチントン病	1	78	下垂体前葉機能低下症	103
9	神経有棘赤血球症	0	79	家族性高コレステロール血症（ホモ接合体）	52
10	シャルコー・マリー・トゥース病	16	80	甲状腺ホルモン不応症	1
11	重症筋無力症	145	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	0
12	先天性筋無力症候群	0	82	先天性副腎低形成症	1
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	53	83	アジソン病	22
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	28	84	サルコイドーシス	294
15	封入体筋炎	2	85	特発性間質性肺炎	46
16	クロウ・深瀬症候群	0	86	肺動脈性肺高血圧症	112
17	多系統萎縮症	7	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	0
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	43	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	8
19	ライソゾーム病	0	89	リンパ脈管筋腫症	1
20	副腎白質ジストロフィー	1	90	網膜色素変性症	0
21	ミトコンドリア病	3	91	バッド・キアリ症候群	1
22	もやもや病	36	92	特発性門脈圧亢進症	1
23	プリオン病	0	93	原発性胆汁性胆管炎	40
24	亜急性硬化性全脳炎	0	94	原発性硬化性胆管炎	24
25	進行性多巣性白質脳症	0	95	自己免疫性肝炎	165
26	HTLV-1関連脊髄症	6	96	クローン病	173
27	特発性基底核石灰化症	0	97	潰瘍性大腸炎	429
28	全身性アミロイドーシス	17	98	好酸球性消化管疾患	0
29	ウルリッヒ病	0	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	2
30	遠位型ミオパチー	1	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
31	ベスレムミオパチー	2	101	腸管神経節細胞僅少症	0
32	自己貪食空胞性ミオパチー	0	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	1
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	0	103	CFC症候群	0
34	神経線維腫症	41	104	コステロ症候群	0
35	天疱瘡	88	105	チャージ症候群	0
36	表皮水疱症	4	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
37	膿疱性乾癬（汎発型）	60	107	若年性特発性関節炎	16
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	0	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
39	中毒性表皮壊死症	0	109	非典型溶血性尿毒症症候群	1
40	高安動脈炎	18	110	ブラウ症候群	0
41	巨細胞性動脈炎	0	111	先天性ミオパチー	6
42	結節性多発動脈炎	22	112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0
43	顕微鏡的多発血管炎	75	113	筋ジストロフィー	55
44	多発血管炎性肉芽腫症	112	114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	45	115	遺伝性周期性四肢麻痺	2
46	悪性関節リウマチ	9	116	アトピー性脊髄炎	0
47	バージャー病	7	117	脊髄空洞症	27
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	15	118	脊髄髄膜瘤	24
49	全身性エリテマトーデス	481	119	アイザックス症候群	0
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	233	120	遺伝性ジストニア	2
51	全身性強皮症	104	121	神経フェリチン症	0
52	混合性結合組織病	81	122	脳表ヘモジデリン沈着症	0
53	シェーグレン症候群	531	123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0
54	成人スチル病	21	124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0
55	再発性多発軟骨炎	5	125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0
56	ベーチェット病	115	126	ペリー症候群	0
57	特発性拡張型心筋症	131	127	前頭側頭葉変性症	0
58	肥大型心筋症	138	128	ビッカースタッフ脳幹脳炎	0
59	拘束型心筋症	1	129	痙攣重積型（二相性）急性脳症	4
60	再生不良性貧血	53	130	先天性無痛無汗症	0

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

61	自己免疫性溶血性貧血	82	131	アレキサンダー病	0
62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	3	132	先天性核上性球麻痺	0
63	特発性血小板減少性紫斑病	157	133	メビウス症候群	1
64	血栓性血小板減少性紫斑病	7	134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0
65	原発性免疫不全症候群	2	135	アイカルディ症候群	1
66	IgA 腎症	123	136	片側巨脳症	0
67	多発性嚢胞腎	28	137	限局性皮質異形成	0
68	黄色靭帯骨化症	46	138	神経細胞移動異常症	0
69	後縦靭帯骨化症	131	139	先天性大脳白質形成不全症	0
70	広範脊柱管狭窄症	5	140	ドラベ症候群	4
	疾　　患　　名	患者数		疾　　患　　名	患者数
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	212	三尖弁閉鎖症	8
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	4
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	6
144	レノックス・ガストー症候群	3	215	ファロー四徴症	56
145	ウエスト症候群	0	216	両大血管右室起始症	32
146	大田原症候群	0	217	エプスタイン病	4
147	早期ミオクロニー脳症	0	218	アルポート症候群	2
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	219	ギャロウェイ・モワト症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	37	220	急速進行性糸球体腎炎	194
150	環状20番染色体症候群	0	221	抗糸球体基底膜腎炎	6
151	ラスムッセン脳炎	0	222	一次性ネフローゼ症候群	6
152	PCDH19関連症候群	0	223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	224	紫斑病性腎炎	4
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	225	先天性腎性尿崩症	1
155	ランドウ・クレフナー症候群	1	226	間質性膀胱炎（ハンナ型）	1
156	レット症候群	4	227	オスラー病	20
157	スタージ・ウェーバー症候群	2	228	閉塞性細気管支炎	3
158	結節性硬化症	12	229	肺胞蛋白症（自己免疫性又は先天性）	6
159	色素性乾皮症	4	230	肺胞低換気症候群	18
160	先天性魚鱗癬	2	231	α1ーアンチトリプシン欠乏症	0
161	家族性良性慢性天疱瘡	1	232	カーニー複合	0
162	類天疱瘡（後天性表皮水疱症を含む。）	11	233	ウォルフラム症候群	1
163	特発性後天性全身性無汗症	0	234	ペルオキシソーム病（副腎白質ジストロフィーを除く。）	0
164	眼皮膚白皮症	0	235	副甲状腺機能低下症	100
165	肥厚性皮膚骨膜症	0	236	偽性副甲状腺機能低下症	8
166	弾性線維性仮性黄色腫	0	237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0
167	マルファン症候群	23	238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	33
168	エーラス・ダンロス症候群	3	239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0
169	メンケス病	0	240	フェニルケトン尿症	1
170	オクシピタル・ホーン症候群	0	241	高チロシン血症1型	0
171	ウィルソン病	7	242	高チロシン血症2型	0
172	低ホスファターゼ症	3	243	高チロシン血症3型	0
173	VATER症候群	1	244	メープルシロップ尿症	0
174	那須・ハコラ病	0	245	プロピオン酸血症	0
175	ウィーバー症候群	0	246	メチルマロン酸血症	1
176	コフィン・ローリー症候群	0	247	イソ吉草酸血症	0
177	ジュベール症候群関連疾患	0	248	グルコーストランスポーター1欠損症	1
178	モワット・ウィルソン症候群	0	249	グルタル酸血症1型	0
179	ウィリアムズ症候群	5	250	グルタル酸血症2型	0
180	ATRーX症候群	1	251	尿素サイクル異常症	3
181	クルーゾン症候群	0	252	リジン尿性蛋白不耐症	0
182	アペール症候群	1	253	先天性葉酸吸収不全	0
183	ファイファー症候群	0	254	ポルフィリン症	2
184	アントレー・ビクスラー症候群	0	255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0
185	コフィン・シリス症候群	0	256	筋型糖原病	0
186	ロスムンド・トムソン症候群	0	257	肝型糖原病	0
187	歌舞伎症候群	4	258	ガラクトースー１ーリン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0
188	多脾症候群	2	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
189	無脾症候群	2	260	シトステロール血症	0
190	鰓耳腎症候群	0	261	タンジール病	0

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

191	ウェルナー症候群	1	262	原発性高カイロミクロン血症	0
192	コケイン症候群	2	263	脳腱黄色腫症	0
193	プラダー・ウィリ症候群	15	264	無βリポタンパク血症	0
194	ソトス症候群	4	265	脂肪萎縮症	2
195	ヌーナン症候群	20	266	家族性地中海熱	20
196	ヤング・シンプソン症候群	0	267	高IgD症候群	1
197	1p36欠失症候群	3	268	中條・西村症候群	0
198	4p欠失症候群	1	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	19
199	5p欠失症候群	1	270	慢性再発性多発性骨髄炎	1
200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0	271	強直性脊椎炎	25
201	アンジェルマン症候群	18	272	進行性骨化性線維異形成症	0
202	スミス・マギニス症候群	1	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	2
203	22q11.2欠失症候群	4	274	骨形成不全症	11
204	エマヌエル症候群	1	275	タナトフォリック骨異形成症	0
205	脆弱X症候群関連疾患	0	276	軟骨無形成症	4
206	脆弱X症候群	0	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	1
207	総動脈幹遺残症	1	278	巨大リンパ管奇形（頚部顔面病変）	0
208	修正大血管転位症	9	279	巨大静脈奇形（頚部口腔咽頭びまん性病変）	0
209	完全大血管転位症	19	280	巨大動静脈奇形（頚部顔面又は四肢病変）	1
210	単心室症	23	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	2
211	左心低形成症候群	5	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
	疾　患　名	患者数		疾　患　名	患者数
283	後天性赤芽球癆	4	311	先天性三尖弁狭窄症	1
284	ダイアモンド・ブラックファン貧血	0	312	先天性僧帽弁狭窄症	1
285	ファンコニ貧血	0	313	先天性肺静脈狭窄症	0
286	遺伝性鉄芽球性貧血	0	314	左肺動脈右肺動脈起始症	0
287	エプスタイン症候群	0	315	ネイルパテラ症候群（爪膝蓋骨症候群）／LMX1B関連腎症	7
288	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	0	316	カルニチン回路異常症	2
289	クロンカイト・カナダ症候群	0	317	三頭酵素欠損症	0
290	非特異性多発性小腸潰瘍症	1	318	シトリン欠損症	11
291	ヒルシュスプルング病（全結腸型又は小腸型）	7	319	セピアプテリン還元酵素（SR）欠損症	0
292	総排泄腔外反症	1	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール（GPI）欠損症	0
293	総排泄腔遺残	3	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
294	先天性横隔膜ヘルニア	8	322	β―ケトチオラーゼ欠損症	0
295	乳幼児肝巨大血管腫	0	323	芳香族L―アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
296	胆道閉鎖症	3	324	メチルグルタコン酸尿症	0
297	アラジール症候群	10	325	遺伝性自己炎症疾患	0
298	遺伝性膵炎	0	326	大理石骨病	0
299	嚢胞性線維症	2	327	特発性血栓症（遺伝性血栓性素因によるものに限る。）	1
300	IgG4関連疾患	57	328	前眼部形成異常	0
301	黄斑ジストロフィー	6	329	無虹彩症	0
302	レーベル遺伝性視神経症	2	330	先天性気管狭窄症／先天性声門下狭窄症	8
303	アッシャー症候群	1	331	特発性多中心性キャッスルマン病	1
304	若年発症型両側性感音難聴	1	332	膠様滴状角膜ジストロフィー	0
305	遅発性内リンパ水腫	3	333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	0
306	好酸球性副鼻腔炎	38	334	脳クレアチン欠乏症候群	0
307	カナバン病	0	335	ネフロン癆	0
308	進行性白質脳症	1	336	家族性低βリポタンパク血症1（ホモ接合体）	0
309	進行性ミオクローヌスてんかん	0	337	ホモシスチン尿症	2
310	先天異常症候群	0	338	進行性家族性肝内胆汁うっ滞症	0

（注）「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	192
合計患者数（人）	6,643

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（基本診療料）

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・後発医薬品使用体制加算1
・歯科外来診療環境体制加算2	・病棟薬剤業務実施加算1
・特定機能病院入院基本料（一般7:1、精神10:1）	・データ提出加算2
・救急医療管理加算	・入退院支援加算1
・超急性期脳卒中加算	・入退院支援加算3
・診療録管理体制加算2	・認知症ケア加算1
・医師事務作業補助体制加算2　30対1	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・急性期看護補助体制加算(看護補助者5割未満)	・精神疾患診療体制加算
・看護職員夜間配置加算1　12対1	・精神科急性期医師配置加算
・療養環境加算	・地域医療体制確保加算
・重症者等療養環境特別加算	・救命救急入院料1
・無菌治療室管理加算1	・特定集中治療室管理料3
・無菌治療室管理加算2	・総合周産期特定集中治療室管理料
・緩和ケア診療加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・精神科身体合併症管理加算	・小児入院医療管理料2
・精神科リエゾンチーム加算	・ハイケアユニット入院医療管理料1
・摂食障害入院医療管理加算	・看護職員処遇改善評価料75
・栄養サポートチーム加算	・看護補助体制充実加算（急性期看護補助体制加算注4）
・医療安全対策加算1	・
・感染対策向上加算1	・
・患者サポート体制充実加算	・
・重症患者初期支援充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・術後疼痛管理チーム加算	

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（特掲診療料）

施設基準の種類	施設基準の種類
外来栄養食事指導料の注2	緑内障手術〔緑内障治療用インプラント挿入術（プレートのあるもの）〕
外来栄養食事指導料の注3に規定する基準	緑内障手術〔流出路再建術（眼内法）〕及び[水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術]
心臓ペースメーカー指導管理料の「注5」に掲げる遠隔モニタリング加算	緑内障手術[濾過法再建術（needle法）]
糖尿病合併症管理料	網膜付着組織を含む硝子体切除術（眼内内視鏡を用いるもの）
がん性疼痛緩和指導管理料	網膜再建術
がん患者指導管理料イ	経外耳道的内視鏡下鼓室形成術
がん患者指導管理料ロ	人工中耳植込術
がん患者指導管理料ハ	人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
がん患者指導管理料ニ	内視鏡下鼻・副鼻腔手術Ｖ型（拡大副鼻腔手術）
外来緩和ケア管理料	鏡視下咽頭悪性腫瘍手術（軟郊外悪性腫瘍手術を含む）
移植後患者指導管理料（造血幹細胞移植後）	内喉頭筋内注入術（ボツリヌス毒素によるもの）
糖尿病透析予防指導管理料	鏡視下喉頭悪性手術
婦人科特定疾患治療管理料	喉頭形成術（甲状軟骨固定用器具を用いたもの）
腎代替療法指導管理料	顎関節人工関節全置換術
一般不妊治療管理料	頭頸部悪性腫瘍光線力学療法
生殖補助医療管理料1	乳がんセンチネルリンパ節加算1
二次性骨折予防継続管理料1	センチネルリンパ節生検（併用）
二次性骨製予防継続管理料3	乳がんセンチネルリンパ節加算2
下肢創傷処置管理料	センチネルリンパ節生検（単独）
院内トリアージ実施料	乳腺悪性腫瘍手術（乳頭乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴わないもの）及び乳頭乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴うもの）
外来放射線照射診療料	ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術
外来腫瘍化学療法診療料	胸腔鏡下拡大胸腺摘出術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
連携充実加算	胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
ニコチン依存症管理料	胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
がん治療連携計画策定料	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（区域切除で内視鏡手術用支援機器を用いる場合）

ハイリスク妊産婦連携指導料1	肺悪性腫瘍手術（壁側・臓側胸膜全切除（横隔膜、心膜合併切除を伴うもの）に限る）
ハイリスク妊産婦連携指導料2	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
肝炎インターフェロン治療計画料	胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
薬剤管理指導料	縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
医療機器安全管理料1	食道縫合術（穿孔、損傷）（内視鏡によるもの）、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、小腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、結腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、腎（腎盂）腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、尿管腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、膣腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）
医療機器安全管理料2	経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）
精神科退院時共同指導料2	胸腔鏡下弁形成術
歯科治療時医療管理料	胸腔鏡下弁置換術
遠隔モニタリング加算（在宅酸素療法指導管理料）	経カテーテル的大動脈弁置換術
遠隔モニタリング加算（在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料）	経皮的僧帽弁クリップ術
在宅植込型補助人工心臓（非拍動流型）指導管理料	不整脈手術　左心耳閉鎖術（胸腔鏡下によるもの）
在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	不整脈手術　左心耳閉鎖術（経カテーテル的手術によるもの）
持続血糖測定器加算（間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合）	経皮的中隔心筋焼灼術
持続血糖測定器加算（間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合）	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
皮下連続式グルコース測定	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術（リードレスペースメーカー）
遺伝学的検査	両心室ペースメーカー移植術（心筋電極の場合）及び両心室ペースメーカー交換術（心筋電極の場合）
染色体検査の注2に規定する基準	両心室ペースメーカー移植術（経静脈電極の場合）及び両心室ペースメーカー交換術（経静脈電極の場合）
骨髄微小残存病変量測定	植込型除細動器移植術（心筋リードを用いるもの）及び植込型除細動器交換術（心筋リードを用いるもの）
BRACA1／2遺伝子検査	植込型除細動器移植術（経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの）、植込型除細動器交換術（その他のもの）及び経静脈電極抜去術
がんゲノムプロファイリング検査	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術（心筋電極の場合）及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術（心筋電極の場合）
先天性代謝異常症検査	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術（経静脈電極の場合）及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術（経静脈電極の場合）
抗アデノ随伴ウイルス9型（AAV9）抗体	大動脈バルーンパンピング法 (IABP法)
HPV核酸検出及びHPV核酸検出（簡易ジェノタイプ測定）	経皮的循環補助法（ポンプカテーテルを用いたもの）
ウイルス・細菌核酸多項目同時検出	腹腔鏡下リンパ節群郭清術（傍大動脈）
検体検査管理加算（Ⅰ）	腹腔鏡下リンパ節群郭清術（側方）
検体検査管理加算(Ⅳ)	内視鏡的逆流防止粘膜切除
国際標準検査管理加算	腹腔鏡下十二指腸局所切除術（内視鏡処置を併施するもの）

遺伝カウンセリング加算	腹腔鏡下胃切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
遺伝性腫瘍カウンセリング加算	腹腔鏡下噴門側胃切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	腹腔鏡下胃全摘術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	腹腔鏡下胃縮小術（スリーブ状切除によるもの）
胎児心エコー法	バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
ヘッドアップティルト試験	腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術（胆嚢床切除を伴うもの）
人工膵臓検査及び人工膵臓療法	胆管悪性腫瘍手術（膵頭十二指腸切除及び肝切除（葉以上）を伴うものに限る）
長期継続頭蓋内脳波検査	体外衝撃波胆石破砕術
終夜睡眠ポリグラフィー（安全精度管理下で行うもの）	腹腔鏡下肝切除術
脳波検査判断料1	腹腔鏡下肝切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
神経学的検査	体外衝撃波膵石破砕術
補聴器適合検査	腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
ロービジョン検査判断料	腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
コンタクトレンズ検査料1	腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術
小児食物アレルギー負荷検査	腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
内服・点滴誘発試験	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
前立腺針生検法（MRI及び超音波検査融合画像によるもの）	腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
CT透視下気管支鏡検査加算	内視鏡的小腸ポリープ切除術
経気管支凍結生検法	腹腔鏡下副腎摘出術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）及び腹腔鏡下副腎髄質腫瘍摘出手術（褐色細胞腫）（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
有床義歯咀嚼能力検査1	腹腔鏡下直腸切除・切断術（内視鏡手術支援機器を用いる場合）
精密触覚機能検査	体外衝撃波腎・尿管結石破砕術
画像診断管理加算3	腎腫瘍凝固・焼灼術 （冷凍凝固によるもの）
CT撮影及びMRI撮影	腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
冠動脈CT撮影加算	腹腔鏡下腎盂形成手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
血流予備量比コンピューター断層撮影	膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術（経尿道）
心臓MRI撮影加算	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
乳房MRI撮影加算	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
小児鎮静下MRI撮影加算	人工尿道括約筋植込・置換術
頭部MRI撮影加算	膀胱頸部形成術（膀胱頸部吊上術以外）、埋没陰茎手術及び陰嚢水腫手術（鼠径部切開によるもの）
全身MRI撮影加算	精巣内精子採取術

抗悪性腫瘍剤処方管理加算	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
外来化学療法加算1	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
無菌製剤処理料	腹腔鏡下仙骨膣固定術
心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）	腹腔鏡下仙骨膣固定術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）	腹腔鏡下腟式子宮全摘術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
運動器リハビリテーション料（Ⅰ）	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに限る）
がん患者リハビリテーション料	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮頸癌に限る）
リンパ浮腫複合的治療料	腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術
歯科口腔リハビリテーション料2	体外式膜型人工肺管理料
経頭蓋磁気刺激療法	医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
児童思春期精神科専門管理加算	医科点数表第2章第10部手術の通則の19に規定する手術（遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。）
認知療法・認知行動療法1	医科点数表第2章第10部手術の通則の19に規定する手術（遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術に限る。）
抗精神病特定薬剤治療管理料 （治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る）	輸血管理料Ⅰ
医療保護入院等診療料	輸血適正使用加算
エタノール局所注入（甲状腺）	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
エタノール局所注入（副甲状腺）	胃瘻造設時嚥下機能評価加算
人工腎臓	広範囲顎骨支持型装置埋入手術
導入期加算2及び腎代替療法実績加算	麻酔管理料Ⅰ
透析液水質確保加算	麻酔管理料Ⅱ
手術用顕微鏡加算	放射線治療専任加算
CAD/CAM冠	外来放射線治療加算
歯科技工加算	高エネルギー放射線療法
悪性黒色腫センチネルリンパ節加算	1回線量増加加算
組織拡張器による再建手術〔乳房（再建手術）の場合に限る〕	強度変調放射線治療（IMRT）
四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に規定する処理骨再建加算	画像誘導放射線治療（IGRT）
骨移植術（軟骨移植術を含む）（同種骨移植（非生体）（同種骨移植（特殊なものに限る））	体外照射呼吸性移動対策加算
骨移植術（軟骨移植術を含む）（自家培養軟骨移植術に限る）	定位放射線治療
後縦靭帯骨化症手術（前方進入によるもの）	定位放射線治療呼吸性移動対策加算
椎間板内酵素注入療法	画像誘導密封小線源治療加算

腫瘍脊椎骨全摘術	保険医療機関間の連携による病理診断
脳腫瘍覚醒下マッピング加算	保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作成
内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術	保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速細胞診
脳刺激装置植込術（頭蓋内電極植込術を含む。）又は脳刺激装置交換術	病理診断管理加算2
脊髄刺激装置植込術又は脊髄刺激装置交換術	悪性腫瘍病理組織標本加算
癒着性脊髄くも膜炎手術（脊髄くも膜剥離操作を伴うもの）	クラウン・ブリッジ維持管理料
舌下神経電気装置植込術	

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・MRI撮影及び超音波検査融合画像に基づく前立腺針生検法（令和4年度診療報酬改定）	・
・流産検体を用いた染色体検査（令和4年度診療報酬改定）	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

（注）1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
（注）2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療（当該病院において提供していたものに限る。）から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	(1.)臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	月4回程度	
剖検の状況	剖検症例数（例）	21
	剖検率（%）	4.5

（注） 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

（様式第3）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
3次元加速度ｾﾝｻｰの開発による高齢者が自己評価できる転倒予防ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの構築	赤津裕康	総合内科・総合診療科	¥4,600,000	(補)委	文部科学省
ﾌﾟﾛﾊﾞｲｵﾃｨｸｽ接取による認知症患者の病態軽減効果に関する試験-ﾌﾟﾗｾﾎﾞ対象探索的二重盲検試験	赤津裕康	総合内科・総合診療科	¥19,130,435	補(委)	森永乳業（株）
microRNAを用いた新規の肝線維化診断法の確立と肝線維化治療法の開発	松浦　健太郎	肝・膵臓内科	¥1,200,000	(補)委	文部科学省
C型肝炎ウイルス排除治療による肝硬変患者のアウトカムに関する研究開発 代表：竹原徹郎（大阪大学消化器内科学）	松浦　健太郎	肝・膵臓内科	¥8,000,000	(補)委	文部科学省
センシング技術を活用した内視鏡医療者の筋骨格系予防モニタリングシステムの開発	堀　寧	肝・膵臓内科	¥1,250,000	(補)委	文部科学省
人間工学に基づいた、新発想のX線防護衣の開発	堀　寧	肝・膵臓内科	¥280,000	(補)委	文部科学省
急性膵炎を経験しない慢性膵炎に関与する宿主遺伝子の同定	堀　寧	肝・膵臓内科	¥1,560,000	(補)委	文部科学省
無意識下に姿勢変容を促す機構を実装した新たなX線防護衣の開発	堀　寧	肝・膵臓内科	¥2,000,000	(補)委	堀科学芸術振興財団
非接触型センシング技術による内視鏡治療従事者の筋骨格系疲労の評価と軽減法の提唱	堀　寧	肝・膵臓内科	¥500,000	(補)委	内視鏡医学研究振興財団
胆汁を用いたﾘｷｯﾄﾞﾊﾞｲｵﾌﾟｼｰ研究；ｴｸｿｿｰﾑ解析による胆道疾患の新規解明	吉田　道弘	肝・膵臓内科	¥1,170,000	(補)委	文部科学省

膵神経内分泌腫瘍における新規分子標的治療の開拓:オートタキシンは治療ターゲットとなるか？	吉田　道弘	肝・膵臓内科	¥700,000	補委	日本膵臓病研究財団
膵癌における間質線維化に関わるRON受容体の治療標的としての可能性の追求	加藤　晃久	肝・膵臓内科	¥1,500,000	補委	文部科学省
治療抵抗性慢性咳嗽の制御へ向けて:バイオマーカーを用いた病態多様性へのアプローチ	新実　彰男	呼吸器・アレルギー内科	¥1,560,000	補委	文部科学省
吸入指導マイスター導入による吸入治療アドヒアランス向上の可能性-多施設前向き試験	竹村　昌也	呼吸器・アレルギー内科	¥420,000	補委	文部科学省
重症喘息の気道過分泌病態における誘発喀痰中ムチンの臨床的意義	田尻　智子	呼吸器・アレルギー内科	¥520,000	補委	文部科学省
難治性喘息の新規バイオマーカーとしてのカプサイシン咳感受性の意義	金光　禎寛	呼吸器・アレルギー内科	¥780,000	補委	文部科学省
カプサイシン咳感受性を基軸としたCOPD患者の入院加療に関わるリスク因子の検討	福光　研介	呼吸器・アレルギー内科	¥390,000	補委	文部科学省
iNOS遺伝子の発現を基軸とした喘息における末梢気道炎症の解明	西山　裕乃	呼吸器・アレルギー内科	¥1,560,000	補委	文部科学省
多機能性T細胞を標的とした免疫学的寛解治療法の確立	前田　伸治	リウマチ・膠原病内科	¥1,170,000	補委	文部科学省
包括的心エコー図検査による早期左室駆出率保持型心不全診断手法の確立	瀬尾　由広	循環器内科	¥4,160,000	補委	文部科学省
PETを用いた心房細動併存心不全における心臓交換神経β受容体密度の影響の解明	後藤　利彦	循環器内科	¥4,030,000	補委	文部科学省
経カテーテル大動脈弁置換術後の認知機能・フレイル改善の機序とその予測因子の解明	藤田　浩志	循環器内科	¥4,680,000	補委	文部科学省

微小血管狭心症に対する非侵襲的診断法の確率と効果的治療法の探索	横井　雅史	循環器内科	¥4,030,000	補 ○ 委	文部科学省
2型糖尿病におけるSGLT2阻害薬の冠微小循環障害及び左室拡張能に与える影響の検討	山本　惇貴	循環器内科	¥1,000,000	補 ○ 委	一般社団法人朝日インテック・宮田尚彦医療技術支援財団
アミロイドーシスに関する調査研究	飯田　真介	血液・腫瘍内科	¥400,000	補 ○ 委	厚生労働省
造血器腫瘍における遺伝子パネル検査の提供体制構築およびガイドライン作成	飯田　真介	血液・腫瘍内科	¥500,000	補 ○ 委	厚生労働省
リキッドバイオプシーを用いた多発性骨髄腫の病態予測ゲノムバイオマーカーの探索研究	飯田　真介	血液・腫瘍内科	¥1,430,000	補 ○ 委	独立行政法人　日本学術振興会
高齢者多発性骨髄腫に対する標準治療の確立と治療効果・耐性獲得に関わる分子基盤の探索	飯田　真介	血液・腫瘍内科	¥910,000	補 ○ 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
多発性骨髄腫に対する至適分子標的療法の確率とバイオアーカーの探索研究	飯田　真介	血液・腫瘍内科	¥1,500,000	補 ○ 委	国立がん研究センター
造血器疾患治療中のB型肝炎ウイルス再活性化に関するリスク因子の解明および予防法の確立	楠本　茂	血液・腫瘍内科	¥11,700,000	補 ○ 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
がん化学療法後のB型肝炎ウイルス再活性後の核酸アナログ中止基準の確立	楠本　茂	血液・腫瘍内科	¥1,560,000	補 ○ 委	独立行政法人　日本学術振興会
成人T細胞白血病に対する移植後シクロフォスファミドを用いた非血縁者間末梢血幹細胞移植法の確立と移植後再発への対策に関する研究	楠本　茂	血液・腫瘍内科	¥260,000	補 ○ 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
血清オミックス解析を中心とした多発性骨髄腫の治療薬ﾚﾅﾘﾄﾞﾐﾄﾞの感受性因子の探索	李　政樹	血液・腫瘍内科	¥1,300,000	補 ○ 委	独立行政法人　日本学術振興会
多発性骨髄腫における抗腫瘍免疫回避の機序解明を目的とした血漿の網羅的解析	李　政樹	血液・腫瘍内科	¥1,690,000	補 ○ 委	独立行政法人　日本学術振興会

造血器腫瘍における遺伝子ﾊﾟﾈﾙ検査の提供体制構築およびガイドライン作成	李　政樹	血液・腫瘍内科	¥500,000	補委	厚生労働省
血清中cell free DNAを用いた悪性ﾘﾝﾊﾟ腫の中枢神経再発ﾘｽｸの研究	鈴木　智貴	血液・腫瘍内科	¥780,000	補委	独立行政法人　日本学術振興会
予後不良多発性骨髄腫における悪性能獲得機序と新規治療開発：ARK5に注目して	木下　史緒理	血液・腫瘍内科	¥1,000,000	補委	独立行政法人　日本学術振興会
認知予備能メカニズムの解明に向けた、コリン作動性神経の新たな観点からの解析	水野　将行	脳神経内科	¥2,300,000	補委	文部科学省
パーキンソン病に伴う認知機能障害の早期診断法の開発：ボクセルベースQSM解析	打田　佑人	脳神経内科	¥3,900,000	補委	文部科学省
脳虚血後の内在性神経幹細胞分化誘導～がん抑制因子RKIPを介して	豊田　剛成	脳神経内科	¥3,380,000	補委	文部科学省
細胞外マトリックス制御による脳梗塞後の内在性神経再生能の促進	藤岡　哲平	脳神経内科	¥2,210,000	補委	文部科学省
新規アルツハイマー病創薬に向けたHCNP受容体単離	松川　則之	脳神経内科	¥1,200,000	補委	文部科学省
パーキンソン病類縁疾患脳でのドパミン神経系変性過程の解明と診断マーカーへの応用	池田　知雅	脳神経内科	¥4,550,000	補委	文部科学省
クエン酸第二鉄水和物による心不全改善効果	村島美穂	腎臓内科	¥1,000,000	補委	鈴木謙三記念医科学応用研究財団
心臓血管外科でsy術を受けた患者の貧血の改善と腎容積	村島美穂	腎臓内科	¥700,000	補委	日本腎臓財団
急性腎障害後の予後予測因子に関する前向き研究	村島美穂	腎臓内科	¥1,300,000	補委	文部科学省科研費

尿細管に着目した腫瘍腎臓病学	濱野高行	腎臓内科	¥900,000	補委	文部科学省科研費
腎性貧血治療薬としてのSGLT2阻害薬の可能性	小野水面	腎臓内科	¥1,500,000	補委	文部科学省科研費
人工知能とテキストマイニングを用いた肥満手術の新しい適応基準の確立に向けた研究	田中達也	消化器・一般外科	¥910,000	補委	文部科学省
肥満予防に向けた胃に発現するTRPチャネルと食欲との関連解析	早川俊輔	消化器・一般外科	¥650,000	補委	文部科学省
大腸癌に切り込む事で生じる腫瘍学的な変化の解明と臨床への応用	牛込創	消化器・一般外科	¥1,040,000	補委	文部科学省
細胞周期DNA修復からみた5-FU抵抗性大腸癌の治療強化法とターゲット蛋白の同定	鈴木卓弥	消化器・一般外科	¥1,040,000	補委	文部科学省
癌関連線維芽細胞とChitinase3-like1が関与した大腸癌進展機序の解明	渡部かをり	消化器・一般外科	¥1,300,000	補委	文部科学省
膵癌における新規分子標的薬の開発を目指した，化学放射線耐性メカニズムの解明	松尾洋一	消化器・一般外科	¥5,590,000	補委	文部科学省
臨床応用を目指した放射線耐性膵癌のCXCL12/CXCR4シグナルの機能解析	今藤裕之	消化器・一般外科	¥1,430,000	補委	文部科学省
NETs形成に着目したcovid-19肺炎の新しい重症度指標	松居亮平	消化器・一般外科	¥1,820,000	補委	文部科学省
ICG蛍光法に代わる精密かつ確実な腸管血流評価システムの構築	木村昌弘	消化器・一般外科	¥2,990,000	補委	文部科学省
大腸癌SM癌の転移・浸潤における癌関連線維芽細胞由来物質TIMP-1の関与の解明	原賢康	消化器・一般外科	¥2,210,000	補委	文部科学省

ゲムシタビン耐性膵がんにおけるZerumboneの抗腫瘍効果の解明	社本智也	消化器・一般外科	¥1,300,000	補委	文部科学省
トリフルリジン耐性大腸癌に対しアポトーシス関連因子をターゲットとした治療開発	前田祐三	消化器・一般外科	¥1,560,000	補委	文部科学省
臨床応用を目指した消化器癌に対するzerumboneの抗腫瘍効果の検討	坪井謙	消化器・一般外科	¥1,300,000	補委	文部科学省
生体内におけるEPAの血管新生抑制に伴う抗腫瘍効果の検討	安藤菜奈子	消化器・一般外科	¥1,040,000	補委	文部科学省
膵癌における抗癌剤耐性、特にゲムシタビン（GEM）耐性の獲得におけるGirdinの機能解析、および臨床応用を目指した新規分子標的治療薬の開発	林祐一	消化器・一般外科	¥1,000,000	補委	日東学術振興財団
癌治療中の鋭敏な腎機能評価を目的とした新規尿中バイオマーカーの同定.	上野修平	消化器・一般外科	¥1,000,000	補委	日東学術振興財団
微量なEGFR T790M遺伝子変異肺癌の臨床的意義の解明と新たな検出手法の確立	立松　勉	呼吸器外科	¥1,200,000	補委	文部科学省
神経芽腫におけるアダプター蛋白質ShfとTrkBとの機能相関解析および臨床応用	髙木大輔	小児外科	¥900,000	補委	文部科学省
凍結免疫療法を用いた転移性骨腫瘍の治療戦略	村上英樹	整形外科	¥910,000	補委	文部科学省
RA関節破壊の制圧に向けた、新規治療ターゲットとしてのグリオスタチンの可能性	川口洋平	整形外科	¥2,080,000	補委	文部科学省
「アドヒアランス」を焦点とした慢性腰痛患者への効果的な運動療法の新たな治療戦略	八木清	整形外科	¥1,560,000	補委	文部科学省
転移性骨腫瘍に対する凍結免疫と免疫チェックポイント阻害薬による治療法の開発	相羽久輝	整形外科	¥1,040,000	補委	文部科学省

新しいストレッチングプログラムによる糖代謝と動脈硬化改善の検証	村上英樹	整形外科	¥1,050,000	補委	公益財団法人杉浦記念財団
肩関節脱臼における肩関節包の解剖学的修復の検討	武長徹也	整形外科	¥130,000	補委	文部科学省
AI を用いた動作解析技術の確立と、遠隔リハビリテーション医療の創出	宇佐美琢也	整形外科	¥1,250,000	補委	公益財団法人杉浦記念財団
肩関節脱臼における肩関節包の解剖学的修復の検討	佐藤 剛	産科婦人科	¥1,430,000	補委	文部科学省
人工知能を用いたタイムラプスイメージングの解析による非侵襲的な胚選択法の確立	澤田　祐季	産科婦人科	¥300,000	補委	文部科学省
インスリン応答に着目した子宮内膜・脱落膜の機能解明による不育症の新規治療戦略	後藤　志信	産科婦人科	¥3,900,000	補委	文部科学省
慢性子宮内膜炎は不育症病態に関与するか？脱落膜免疫組織染色と菌叢解析を用いた検討	北折珠央	産科婦人科	¥3,770,000	補委	文部科学省
不育症・ヒト生殖メカニズム解明のための共同研究拠点	杉浦真弓	産科婦人科	¥15,750,000	補委	文部科学省
Super流産の原因遺伝子の同定と胎児染色体正常原因不明習慣流産の病態解明	杉浦真弓	産科婦人科	¥1,339,000	補委	文部科学省
Schaaf-Yang症候群の診断基準策定と疫学に関する研究	齋藤伸治	小児科	¥1,900,000	補委	厚生労働省
先天異常症候群のライフステージ全体の自然歴と合併症の把握：Reverse phenotypingを包含したアプローチ	齋藤伸治	小児科	¥950,000	補委	厚生労働省
神経変性疾患領域の基盤的調査研究	齋藤伸治	小児科	¥1,350,000	補委	厚生労働省

未診断疾患イニシアチブ(Initiative on Rare and Undiagnosed Diseases(IRUD)):希少未診断疾患に対する診断プログラムの開発に	齋藤伸治	小児科	¥2,700,000	○補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
インプリンティング疾患の診療ガイドライン作成に向けたエビデンス創出研究	齋藤伸治	小児科	¥1,000,000	○補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
脳内AMPA受容体密度の変化に着目したアンジェルマン症候群の病態解明	齋藤伸治	小児科	¥1,000,000	○補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
危急的新生児疾患に対する網羅的遺伝子診断法の意義に関する研究	齋藤伸治	小児科	¥1,400,000	○補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
精緻エピゲノム解析技術開発とIRUD未解明症例への応用	齋藤伸治	小児科	¥4,500,000	○補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
脳オルガノイドを用いた巨脳症発症メカニズムの解明	齋藤伸治	小児科	¥2,400,000	○補委	文科省科研費
小児科分野に関する学術研究動向-小児科学と遺伝学を中心とした基礎科学との境界領域における新たな展開-	齋藤伸治	小児科	¥1,200,000	○補委	日本学術振興会
新生児の痛み・苦痛を客観定量する簡便なモニタリング法の確立	岩田欧介	小児科	¥5,500,000	○補委	国立研究開発法人科学技術振興機構
近未来こども環境デザイン拠点	岩田欧介	小児科	¥3,400,000	○補委	国立研究開発法人科学技術振興機構
新生児低酸素性虚血性脳症の早期重症度診断法の開発	岩田欧介	小児科	¥250,000	○補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
母親の録音言語は早産児の言語発達を改善するか？	岩田欧介	小児科	¥1,450,000	○補委	文科省科研費
睡眠同期を中心にした母児関係構築の遅れが母の育児不安と児の高次脳機能に与える影響	岩田幸子	小児科	¥700,000	○補委	文科省科研費

小児固形腫瘍治療に対する粒子線治療のための吸収性スペーサー留置ラットモデルの構築	亀井美智	小児科	¥827,000	補委	文科省科研費
ヒト新生児脳に特徴的なニューロン再生メカニズムの解明と脳傷害後の再生実現化	神農英雄	小児科	¥1,500,000	補委	文科省科研費
Schaaf-Yang症候群に伴う脳症様症状の発症メカニズム解明と治療法開発	根岸　豊	小児科	¥2,100,000	補委	文科省科研費
甲状腺におけるヨード動態の解明とSLC26A7遺伝子異常の診療戦略の確立	青山幸平	小児科	¥800,000	補委	文科省科研費
Schaaf-Yang症候群に対するアンチセンス核酸治療法の確立	家田大輔	小児科	¥2,000,000	補委	文科省科研費
早産児脳傷害の包括的病態解明と神経再生促進技術の開発	川瀬恒哉	小児科	¥1,300,000	補委	文科省科研費
神経幹細胞のミトコンドリア脂質膜代謝に着目した脳回形成制御機構の解明	中村勇治	小児科	¥1,200,000	補委	文科省科研費
病的高シェアストレスが生じる肺動脈病変の発症・進行メカニズムの解明とその治療応用	篠原　務	小児科	¥2,700,000	補委	文科省科研費
エンドソームリサイクル機能障害が引き起こす疾患の全体像の解明	加藤耕治	小児科	¥1,100,000	補委	文科省科研費
新生児の肺障害を修復する多能性幹細胞（Muse細胞）を用いた再生治療の開発	加藤　晋	小児科	¥550,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
肺胞マクロファージの炎症調節機能に着目した重症型慢性肺疾患の病態解明	加藤　晋	小児科	¥1,100,000	補委	文科省科研費
進行性家族性肝内胆汁うっ滞症1型の救命に資する肝保護両方の実用化研究	戸川貴夫	小児科	¥3,000,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

原因不明の小児急性肝炎及びMIS-Cに伴う肝炎の病態解明と治療法の開発	戸川貴夫	小児科	¥200,000	○ 補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
遺伝性胆汁うっ滞疾患に対する全ゲノム解析による新規分子病態の発見と診断率の向上	戸川貴夫	小児科	¥1,500,000	○ 補委	文科省科研費
肺胞マクロファージに注目したウイルス感染症による気管支喘息の発症促進機序の解明	尾関和芳	小児科	¥1,000,000	○ 補委	文科省科研費
ろ紙血を用いた新生児腎不全スクリーニング	中野　優	小児科	¥500,000	○ 補委	文科省科研費
甲状腺オルガノイドを用いた先天性甲状腺機能低下症の病態解明と新たな治療戦略の確立	鈴木敦詞	小児科	¥1,800,000	○ 補委	文科省科研費
福山型先天性筋ジストロフィー患者における内服ステロイド薬の治験	服部文子	小児科	¥200,000	○ 補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
眼底自発蛍光を用いたレーザー光凝固の瘢痕形成過程を指標とした効果判定基準の確立	野崎　実穂	眼科	¥1,300,000	○ 補委	独立行政法人　日本学術振興会
加齢黄斑変性病態における肥満細胞・マクロファージの役割の解明	安川　　力	眼科	¥7,020,000	○ 補委	独立行政法人　日本学術振興会
網膜静脈閉塞症における虚血の関与解明と臨床への応用	平野　佳男	眼科	¥1,300,000	○ 補委	独立行政法人　日本学術振興会
加齢黄斑変性における「網膜色素上皮-ブルッフ膜」メンテナンスの解明	加藤　亜紀	眼科	¥1,690,000	○ 補委	独立行政法人　日本学術振興会
ケモカイン受容体を標的とした萎縮型加齢黄斑変性制御機構の解明と新規治療法の開発	平原修一郎	眼科	¥780,000	○ 補委	独立行政法人　日本学術振興会
インプラントデバイスを使用した新しい眼内薬物徐放システムの開発	高瀬　範明	眼科	¥650,000	○ 補委	独立行政法人　日本学術振興会

糖尿病網膜症における新規治療標的の提唱	小椋俊太郎	眼科	¥1,430,000	○補 委	独立行政法人　日本学術振興会
滲出型加齢黄斑変性に対する脈絡膜マスト細胞の関与の解明と臨床への応用	小椋俊太郎	眼科	¥1,170,000	○補 委	独立行政法人　日本学術振興会
VEGF阻害薬が無効な糖尿病黄斑浮腫のバイオマーカーの確立および新規治療開発	加藤　房枝	眼科	¥650,000	○補 委	独立行政法人　日本学術振興会
ウイルスに起因する急性聴平衡覚障害の包括的病態解明と新規治療への応用	岩﨑　真一	耳鼻いんこう科	¥4,030,000	○補 委	文部科学省
痙攣性発声障害の疾患レジストリを活用した診療ガイドライン作成研究	讃岐　徹治	耳鼻いんこう科	¥3,478,000	○補 委	厚生労働省
チタンブリッジ手術を用いた痙攣性発声障害に対する国際的新規治療戦略の開発	讃岐　徹治	耳鼻いんこう科	¥10,140,000	補 ○委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
新規予後予測モデルの構築を目指した頭頸部がんにおける生活習慣の予後への影響	川北　大介	耳鼻いんこう科	¥650,000	○補 委	文部科学省
口腔扁平上皮癌の三次元培養モデルでの空気曝露レベルによる低酸素誘導因子の発現解析	佐藤　慎太郎	耳鼻いんこう科	¥910,000	○補 委	文部科学省
個別化医療に向けた腫瘍溶解ウイルス療法の開発	江崎　伸一	耳鼻いんこう科	¥4,290,000	○補 委	文部科学省
高齢者慢性めまいに対する認知行動療法を組み合わせたハイブリッド前庭リハビリの開発	蒲谷　嘉代子	耳鼻いんこう科	¥1,170,000	○補 委	文部科学省
細胞表面へのCTLA-4発現に着目した制御性T細胞を標的とする頭頸部癌治療の開発	的場　拓磨	耳鼻いんこう科	¥1,040,000	○補 委	文部科学省
内耳におけるカルシウム恒常性の維持機構に関与する分子機構の解明	南方　寿哉	耳鼻いんこう科	¥780,000	○補 委	文部科学省

頭頸部癌の低酸素環境適応機構の解明と新規治療標的の同定	村嶋　明大	耳鼻いんこう科	¥2,210,000	補委	文部科学省
両側反回神経麻痺に対する新規治療戦略	竹本　直樹	耳鼻いんこう科	¥780,000	補委	文部科学省
日本人小児睡眠時無呼吸治療に関わる身体発育	有馬　菜千枝	耳鼻いんこう科	¥1,560,000	補委	文部科学省
感音性難聴に対するZoledronateの治療効果と薬物作用機序の解明	勝見　さち代	耳鼻いんこう科	¥1,560,000	補委	文部科学省
拡大広背筋皮弁における血行動態に関する研究	鳥山 和宏	形成外科	¥2,470,000	補委	文部科学省
生体親和性マテリアルを用いた、糖尿病性潰瘍の新規治療法の開発	佐藤 秀吉	形成外科	¥2,140,000	補委	文部科学省
紫外線照射による制御性T細胞の誘導と解析―皮膚病変のリキッドバイオプシーの開発	森田明理	皮膚科	¥2,000,000	補委	文部科学省
次世代シーケンサーを用いたメルケル細胞癌の抗腫瘍免疫関連バイオマーカーの検索	中村元樹	皮膚科	¥650,000	補委	文部科学省
乾癬により肝硬変を発症する免疫学的機序の検討と肝硬変治療への応用	井汲今日子	皮膚科	¥650,001	補委	文部科学省
アトピー性皮膚炎におけるAKR1C3遺伝子変異・多型の解析	山本　礼	皮膚科	¥1,040,000	補委	文部科学省
抗原特異的光免疫を誘導する最適な波長特性の研究	益田秀之	皮膚科	¥2,210,000	補委	文部科学省
オールジャパンコホート連携による大規模乾癬ゲノム・臨床情報の構築	森田明理	皮膚科	¥2,600,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

進行性悪性黒色腫治療における抗PD-1抗体とのTM5614の安全性・有効性を検討する第Ⅱ相試験	加藤裕史	皮膚科	¥3,900,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
生体内免疫応答と修復機構の統合的解析による尿路結石の病態解明と溶解療法への展開	安井　孝周	泌尿器科	¥32,700,000	補委	文部科学省
機能的な構造を有する腎・尿路再生への選択的細胞抽出法を応用した基礎的研究	中根　明宏	泌尿器科	¥3,300,000	補委	文部科学省
フェムト秒レーザーを用いた新たな尿路結石治療法の開発	濵本　周造	泌尿器科	¥3,200,000	補委	文部科学省
シングルセル解析を用いたオートファジー依存型結石抑制遺伝子の同定	海野　怜	泌尿器科	¥3,200,000	補委	文部科学省
筋層浸潤膀胱癌に対する磁性ナノ粒子を用いた膀胱温存療法の確立	権田　将一	泌尿器科	¥2,200,000	補委	文部科学省
尿路結石患者のデータ・バイオバンク情報の統合解析によるオミックス医療の確立	田口　和己	泌尿器科	¥200,000	補委	公益財団法人愛知腎臓財団
HIF-PH阻害剤による結石形成抑制機序の解明	河瀬　健吾	泌尿器科	¥250,000	補委	公益財団法人豊秋奨学会
尿路結石手術後の尿管ステントにおける結石付着についての無作為比較試験	濵本　周造	泌尿器科	¥300,000	補委	公益財団法人日東学術振興財団
C型肝炎ウイルス排除治療による肝硬変患者のアウトカムに関する研究開発 代表：竹原徹郎（大阪大学消化器内科学）	田口　和己	泌尿器科	¥120,000	補委	公益財団法人大幸財団
マイクロバブル・ナノ粒子導入によるマクロファージの結晶貪食作用を利用した尿路結石の溶解治療の開発	田口　和己	泌尿器科	¥1,000,000	補委	公益財団法人鈴木謙三記念医科学応用研究財団
筋層浸潤膀胱癌のナノ粒子を用いた膀胱温存療法の確立	権田　将一	泌尿器科	¥1,000,000	補委	公益財団法人渡邉財団

精子幹細胞の分化・増殖にかかわる甲状腺機能の役割に関する包括的研究	林 祐太郎	小児泌尿器科	¥1,200,000	補 ○ 委	文部科学省
時期特異的な精子幹細胞の分化過程の包括的解析と生殖医療への新規治療戦略	水野 健太郎	小児泌尿器科	¥2,400,000	補 ○ 委	文部科学省
ロボット支援腹腔鏡下前立腺小室切除術の安全性に関する臨床研究	水野 健太郎	小児泌尿器科	¥1,000,000	補 ○ 委	日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会
精子形成障害におけるエピゲノム因子の解明による男性不妊症に対する新規治療薬の確立	西尾 英紀	小児泌尿器科	¥1,700,000	補 ○ 委	文部科学省
乳がん患者の再発不安・恐怖に対するスマートフォン問題解決療法および行動活性化療法の有効性：無作為割付比較試験	明智　龍男	精神科	¥13,921,000	補 ○ 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）
乳がん患者の乳がん切除後疼痛症候群に対するスマホ精神療法の開発 ：革新的な分散型基盤を用いた多機関共同無作為割付比較試験	明智　龍男	精神科	¥9,150,000	補 ○ 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）
AYA世代のがん患者に対するスマートフォンによる医療・支援モデル介入効果の検証	明智　龍男	精神科	¥4,900,000	補 ○ 委	厚生労働科省
サイバー空間とフィジカル空間を融合させた近未来緩和ケアシステムの開発研究	明智　龍男	精神科	¥6,900,000	補 ○ 委	文部科学省
がん患者の不安、抑うつに対するスマートフォン精神療法の有効性：無作為割付比較試験	明智　龍男	精神科	¥3,000,000	補 ○ 委	文部科学省
大人の自閉スペクトラム症への個別化医療：スマートフォンを用いた問題解決療法の実現	山田　敦朗	精神科	¥1,500,000	補 ○ 委	文部科学省
がん患者の遺族の死別前後の苦痛を軽減するためのICT技術を応用した看護ケアの開発	内田　恵	精神科	¥700,000	補 ○ 委	文部科学省
最新の認知行動療法による医師バーンアウト改善プログラムの普及を目指した開発研究	渡辺　孝文	精神科	¥1,100,000	補 ○ 委	文部科学省

患者意向調査を踏まえて開発する、看護師協働の終末期意思決定支援プログラム	長谷川　貴昭	精神科	¥800,000	補委	文部科学省
放射線生物学的基礎実験に基づく定位照射の最適照射間隔の確立	富田　夏夫	放射線科	¥300,000	補委	文部科学省
転移性脳腫瘍に対する定位放射線治療の連日照射法と間隔を空けた照射法の	富田　夏夫	放射線科	¥1,000,000	補委	公益財団法人 堀科学芸術振興財団
転移性脳腫瘍に対する定位放射線治療の連日照射法と間隔を空けた照射法のランダム化比較試験	富田　夏夫	放射線科	¥600,000	補委	日本放射線腫瘍学会 2021・2022度研究課題
ロボットガイドを使用したマーカー留置法の確立	太田賢吾	放射線科	¥1,000,000	補委	堀科学芸術振興財団
血液脳関門の破綻に着目した術後神経認知機能障害の発症機序解明	祖父江　和哉	麻酔科	¥3,500,000	補委	文部科学省
脳保護因子エリスロポエチンとミクログリア活性化制御に注目した新規脳低温療法	田村　哲也	麻酔科	¥800,000	補委	文部科学省
神経障害性疼痛モデルを用いた末梢神経シュワン細胞の痛みへの関与の解析	加古　英介	麻酔科	¥1,500,000	補委	文部科学省
多施設データベース構築によるPACU（麻酔後ケアユニット）の安全性と有用性の検証	仙頭　佳起	麻酔科	¥2,800,000	補委	文部科学省
海馬アストロサイトからのL-乳酸低下に着目した糖尿病の認知機能障害の発症機序解明	森島　徹朗	麻酔科	¥1,200,000	補委	文部科学省
・規模脳活動記録とイメージングによる痛み認知の脳内情報伝達回路の解明	田中　基	麻酔科	¥500,000	補委	文部科学省
術後回復室（PACU）退室基準を活・した本邦の・児術後管理の質の向上	長谷川 達也	麻酔科	¥200,000	補委	文部科学省

活性化脊髄後角アストロサイトのL-乳酸輸送異常による神経障害性疼痛の機序解明	井口　広靖	麻酔科	¥1,000,000	補委	文部科学省
海馬歯状回における神経細胞の新生低下に注目した慢性疼痛の発症機序解明	青木　優祐	麻酔科	¥1,200,000	補委	文部科学省
脳血流量の変化を指標とした慢性疼痛患者の脳機能評価	杉浦　健之	麻酔科	¥800,000	補委	文部科学省
いたみセンターを中心とした慢性疼痛診療システムの均てん化と診療データベースの活用による医療向上を目指す研究	杉浦　健之	麻酔科	¥400,000	補委	厚生労働省
慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業	杉浦　健之	麻酔科	¥4,600,000	補委	厚生労働省
頚動脈石灰化粥腫安定機構の多角的エピジェネティック制御と分子間クロストークの探究	片野広之	脳神経外科	¥1,100,000	補委	文部科学省
空間活用能を装備した新規の内視鏡flexible-rigid scopeの開発	谷川元紀	脳神経外科	¥2,100,000	補委	文部科学省
脳脊髄液の新規流体解析を用いた正常圧水頭症の病態解明	山田茂樹	脳神経外科	¥800,000	補委	文部科学省
安静時fMRIを用いたiNPH診療の新たなイメージングバイオマーカーの探求	山田紘史	脳神経外科	¥1,800,000	補委	文部科学省
正常圧水頭症による認知症の診断・治療	山田茂樹	脳神経外科	¥1,000,000	補委	公益財団法人大樹生命厚生財団
3次元画像解析システムボリュームアナライザーSYNAPSE VINCENTを活用した脳血管・脳脊髄液に関連する病態解明研究、脳神経外科手術シミュ	山田茂樹	脳神経外科	¥750,000	補委	富士フイルム株式会社
集団行動制限環境下においても高齢者の健康・日常生活動作をリモートで見守るAIシステムの導入	山田茂樹	脳神経外科	¥1,000,000	補委	大阪ガスグループ福祉財団

食品基礎科学を応用した新規咀嚼機能評価法の開発とオーラルフレイルへの波及効果	渋谷　恭之	歯科口腔外科	¥1,040,000	補 委	文部科学省
多血小板血漿を用いた放射線性口腔粘膜炎治療薬の確立	宮本大模	歯科口腔外科	¥780,000	補 委	文部科学省
REM睡眠行動障害に影響を与える呼吸イベントの解明	池森　宇泰	歯科口腔外科	¥1,040,000	補 委	文部科学省
活性フラボノイドを用いた口腔潜在的悪性疾患に対する治療薬の開発	加藤　伸一郎	歯科口腔外科	¥390,000	補 委	文部科学省
チタン上のプロテオグリカン層がオッセオインテグレーション獲得に果たす役割の解明	土屋　周平	歯科口腔外科	¥1,560,000	補 委	文部科学省
最適化したエクソソームによる放射線顎骨壊死に対する治療法の開発	岡部一登	歯科口腔外科	¥1,560,000	補 委	文部科学省
人工知能による細胞診での口腔がん検診システムの開発	石橋謙一郎	歯科口腔外科	¥1,300,000	補 委	文部科学省
好中球細胞外トラップNETsと低酸素誘導性因子HIFに着目した敗血症の病態解明	下村泰代	救急科	¥3,267,816	補 委	文部科学省
NETs形成に着目したcall-19肺炎の新しい重症度指標	松居亮平	救急科	¥1,820,000	補 委	文部科学省

計199件

（様式第3）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1	Hiroyasu Akatsu ,Toshie Manabe , Yoshihiro Kawade 他	総合内科・総合診療科	Effect of Ankle Weights as a Frailty Prevention Strategy in the Community-Dwelling Elderly: A Preliminary Report	Int. J. Environ. Res. Public Health 2022 Jun 15	Original Article
2	Takanori Suzuki, Takako Inoue, Kentaro Matsuura, et al	肝・膵臓内科	Clinical usefulness of a novel high-sensitivity hepatitis B core-related antigen assay to determine the initiation of treatment for HBV reactivation	Journal of Gastroenterology . 2022 Jul;57(7):486-494.	Original Article
3	Takanori Suzuki, Kentaro Matsuura, Yoshihito Nagura, et al.	肝・膵臓内科	Serum angiopoietin-2 levels predict regression of Mac-2 binding protein glycosylation isomer-based liver fibrosis after hepatitis C virus eradication by direct-acting antiviral agents	Hepatology Research . 2022 Nov;52(11):919-927.	Original Article
4	Takanori Suzuki, Itaru Naitoh, Takahito Katano, et al.	肝・膵臓内科	Primary Sclerosing Cholangitis and Autoimmune Hepatitis Overlapping Syndrome Complicated by Ulcerative Colitis	Internal Medicine . 2022 Aug 15;61(16):2471-2475.	Case report
5	Hori Y, Kato A, Naitoh I, et al	肝・膵臓内科	Use of a transpapillary stent as a guidepost for endoscopic ultrasound-guided pancreatic duct drainage in the treatment of disconnected pancreatic duct syndrome	Endoscopy. 2023 Dec;55(S01):E262-E263	Case report
6	Yoshida M, Naitoh I, Hayashi K, et al.	肝・膵臓内科	Irrigation-assisted intraductal ultrasonography with a 3-Fr microcatheter during endoscopic retrograde cholangiography	Endoscopy . 2022 Jun;54(6):E294-E295	Case report
7	Yoshida M, Tanaka Y, Hayashi K, et al.	肝・膵臓内科	Clinical impact of bile-derived exosomal microRNAs as novel diagnostic and prognostic biomarkers for biliary tract cancers	Cancer Sci . 2023 Jan;114(1):295-305. doi: 10.1111/cas.15597. Epub 2022 Oct 17.	Original Article

8	Yoshida M, Naitoh I, Hori Y, et al.	肝・膵臓内科	Theoretical step approach with 'Three-pillar' device assistance for successful endoscopic transpapillary gallbladder drainage	PLoS One . 2023 Feb 9;18(2):e0281605. doi: 10.1371/journal.pone.0281605. eCollection 2023.	Original Article
9	Kuno K, Hori Y, Matsuura K, et. Al	肝・膵臓内科	Intra-abdominal haemorrhage following an endoscopic retrograde cholangiopancreatography-related procedure: a rare complication	Endoscopy. 2023 Dec;55(S01):E340-E341. doi: 10.1055/a-1986-7424. Epub 2023 Jan 16.	Case report
10	Sahashi H, Kato A, Yoshida M	肝・膵臓内科	Urolithin A targets the AKT/WNK1 axis to induce autophagy and exert anti-tumor effects in cholangiocarcinoma	Front Oncol. 2022 Sep 23;12:963314. doi: 10.3389/fonc.2022.963314. eCollection 2022.	Original Article
11	Kato A, Kato H, Naitoh I,	肝・膵臓内科	Use of Endoscopic Scraper and Cell Block Technique as a Replacement for Conventional Brush for Diagnosing Malignant Biliary Strictures	Cancers (Basel). 2022 Aug 27;14(17):4147. doi: 10.3390/cancers14174147.	Original Article
12	Kachi K, Naitoh I, Tesshin Ban 他	肝・膵臓内科	Concomitant Pancreatic Ductal Adenocarcinoma and Type 1 Autoimmune Pancreatitis: A Potential Issue in the Diagnosis of Carcinoma by Endoscopic Ultrasound-guided Fine-needle Biopsy	Internal Medicine. 2023 Feb 15;62(4):545-551	Case report
13	Kato A, Naitoh I, Naiki-Ito A	肝・膵臓内科	Class III β-Tubulin Expression Is of Value in Selecting nab -Paclitaxel and Gemcitabine as First-Line Therapy in Unresectable Pancreatic Cancer	Pancreas . 2022 Apr 1;51(4):372-379. doi: 10.1097/MPA.0000000000002032. Epub 2022 Jun 12.	Original Article
14	Kato A, Natsume M, Yoshida M	肝・膵臓内科	Endoscopic tapered sheath-assisted removal of a proximally migrated pancreatic stent	Endoscopy . 2022 Dec;54(S02):E767-E768. doi: 10.1055/a-1792-2955. Epub 2022 Mar 31.	Case report
15	Kito Y, Kato A, Yoshida M	肝・膵臓内科	Facile and secure deployment of plastic stent through an endoscopic tapered sheath for endoscopic ultrasound-guided drainage	Endoscopy . 2022 Nov;54(11):E674-E675. doi: 10.1055/a-1747-3162. Epub 2022 Feb 15.	Case report
16	Kato A, Yoshida M, Kachi K	肝・膵臓内科	A 3-Fr microcatheter is suitable for a 0.018-inch guidewire during endoscopic ultrasound-guided biliary drainage	Endoscopy . 2022 Dec;54(S02):E882-E883. doi: 10.1055/a-1860-1981. Epub 2022 Jun 24.	Case report

17	Kurokawa R, Kanemitsu Y, Fukumitsu K	呼吸器・アレルギー内科	Nasal polyp eosinophilia and FeNO may predict asthma symptoms development after endoscopic sinus surgery in CRS patients without asthma	J Asthma. 2022 Jun;59(6):1139-1147	Original Article
18	Niimi A, Saito J, Kamei T	呼吸器・アレルギー内科	Randomised trial of the P2X3 receptor antagonist sivopixant for refractory chronic cough.	Eur Respir J. 2022 Jun 2;59(6):2100725	Original Article
19	Tajiri T, Matsumoto H, Jinnai M	呼吸器・アレルギー内科	Pathophysiological relevance of sputum MUC5AC and MUC5B levels in patients with mild asthma	Allergol Int. 2022 Apr;71(2):193-199	Original Article
20	Fukumitsu K, Nishiyama H, Kanemitsu Y	呼吸器・アレルギー内科	Pretreatment Alveolar Nitric Oxide Levels Predict Improvement of Pulmonary Function 1 Year Following Anti-Asthma Treatments in Patients with Inhaled Corticosteroid-Naïve Asthma	Int Arch Allergy Immunol. 2022;183(5):479-489	Original Article
21	Kurokawa R, Kanemitsu Y, Fukumitsu K	呼吸器・アレルギー内科	Reflux-related symptoms reflect poor asthma control and the presence of airway neuronal dysfunction	Allergol Int. 2022 Jul;71(3):318-324	Original Article
22	Horiuchi M, Oguri T, Kagawa Y	呼吸器・アレルギー内科	Differences in the Therapeutic Effect of Chemotherapy Regimens for Concurrent Chemoradiotherapy of Locally Advanced Non-small Cell Lung Cancer	Anticancer Res. 2022 Feb;42(2):1073-1079	Original Article
23	Kagawa Y, Sone K, Oguri T	呼吸器・アレルギー内科	Predictive role of CYFRA 21-1 for S-1 monotherapy in non-small cell lung cancer patients.	Respir Investig. 2022 May;60(3):393-399	Original Article
24	Nishiyama H, Kanemitsu Y, Fukumitsu K	呼吸器・アレルギー内科	Characteristics of the European Thoracic Society/American Thoracic Society severe asthma definition as a determinant of future use of biologics/bronchial thermoplasty	Asia Pac Allergy. 2022 Apr 14;12(2):e13.	Original Article
25	Fujita K, Ohkubo H, Nakano A	呼吸器・アレルギー内科	Serum creatinine/cystatin C ratio is a surrogate marker for sarcopenia in patients with idiopathic pulmonary fibrosis.	Serum creatinine/cystatin C ratio is a surrogate marker for sarcopenia in patients with idiopathic pulmonary fibrosis.	Original Article

26	Mori Y, Ito Y, Takeda N	呼吸器・アレルギー内科	Tolerability, adverse events, and efficacy of treatment for Mycobacterium avium complex pulmonary disease in elderly patients	J Infect Chemother. 2022 Sep;28(9):1255-1260	Original Article
27	Niimi A, Sagara H, Kikuchi M	呼吸器・アレルギー内科	A phase 3, randomized, double-blind, clinical study to evaluate the long-term safety and efficacy of gefapixant in Japanese adult participants with refractory or unexplained chronic cough	Allergol Int. 2022 Oct;71(4):498-504	Original Article
28	Horiuchi M, Uemura T, Oguri T	呼吸器・アレルギー内科	Genetic variations in the ATP-binding cassette transporter ABCC10 are associated with neutropenia in Japanese patients with lung cancer treated with nanoparticle albumin-bound paclitaxel.	Invest New Drugs. 2022 Oct;40(5):934-943	Original Article
29	Fujita K, Ohkubo H, Nakano A	呼吸器・アレルギー内科	Decreased peak expiratory flow rate associated with mortality in idiopathic pulmonary fibrosis: A preliminary report	Chron Respir Dis. 2022 Jan-Dec;19:14799731221114153	Original Article
30	Fujita K, Ohkubo H, Nakano A	呼吸器・アレルギー内科	Frequency and impact on clinical outcomes of sarcopenia in patients with idiopathic pulmonary fibrosis	Chron Respir Dis. 2022 Jan-Dec;19:14799731221117298	Original Article
31	Fujikawa M, Tajiri T, Takemura M	呼吸器・アレルギー内科	An autopsy case of immune-related severe colitis due to long-term use of nivolumab in a patient with non-small cell lung cancer.	Respir Med Case Rep. 2022 Aug 2;39:101720.	Case report
32	Ito K, Tajiri T, Nishiyama H	呼吸器・アレルギー内科	Residual Dyspnea May Predict Small Airways Dysfunction and Poor Responsiveness to Single-Inhaler Triple Therapy in Asthmatic Patients	J Asthma Allergy. 2022 Nov 2;15:1561-1568	Original Article
33	Ohkubo H, Fujita K, Nakano A	呼吸器・アレルギー内科	SARC-F scores can predict health status and daily activity in patients with idiopathic pulmonary fibrosis	J Thorac Dis. 2022 Nov;14(11):4309-4318	Original Article
34	Kanemitsu Y, Niimi A.	呼吸器・アレルギー内科	Risk factors contributing to impaired cough-specific quality of life at the time of admission for coronavirus disease 2019 treatment.	J Thorac Dis. 2022 Dec;14(12):5075-5086	Original Article

35	Tajiri T, Suzuki M, Kutsuna T	呼吸器・アレルギー内科	specific IgE response and omalizumab responsiveness in severe allergic asthma	J Asthma Allergy 2023 Jan 22;16:149-157.	Original Article
36	Yamabe T, Ohmura SI, Uehara K	リウマチ・膠原病内科	Macrophage activation syndrome in patients with adult-onset Still's disease under tocilizumab treatment: A single-center observational study	Mod Rheumatol. 2022 Jan 5;32(1):169-176	Original Article
37	Naniwa T, Yamabe T, Ohmura SI	リウマチ・膠原病内科	Baseline clinical features predicting macrophage activation syndrome in patients with systemic adult-onset Still's disease receiving interleukin-6 inhibitor treatment	Int J Rheum Dis. 2022 Sep;25(9):1003-1012	Original Article
38	Nobuyuki Ohte, Shohei Kikuchi, Yoshihiro Seo	循環器内科	Cardiac mechanical baseline for heart failure with preserved ejection fraction beyond the underlying aetiology	Eur Heart J Cardiovasc Imaging. 2023 Mar 22:jead051. doi: 10.1093/ehjci/jead051. Epub ahead of print. PMID: 36945184	Original Article
39	Nobuyuki Ohte, Atsushi Tanaka, Shuichi Kitada, 他	循環器内科	Influence of left ventricular ejection fraction on the reduction in N-terminal pro-brain natriuretic peptide by canagliflozin in patients with heart failure and type 2 diabetes: A sub analysis of the CANDLE trial.	J Cardiol. 2022 Dec 5:S0914-5087(22)00295-7. doi: 10.1016/j.jjcc.2022.11.012. Epub ahead of print. PMID: 36481298.	Original Article
40	Nobuyuki Ohte, Shohei Kikuchi, Noriaki Iwahashi, 他	循環器内科	EASY HFpEF Investigators. Unfavourable outcomes in patients with heart failure with higher preserved left ventricular ejection fraction.	Eur Heart J Cardiovasc Imaging. 2023 Feb 17;24(3):293-300. doi: 10.1093/ehjci/jeac240. PMID: 36464890	Original Article
41	Toshihiko Goto, Takafumi Nakayama, Junki Yamamoto,他	循環器内科	Reclassification of Heart Failure with Preserved Ejection Fraction Following Cardiac Sympathetic Nervous System Activation: A New Cutoff Value of 58% Tomography.	Tomography.2022;8:1595-1607. PMID: 35736880	Original Article
42	Kosuke Nakasuka, 他	循環器内科	Sex-related differences in the prognosis of patients with cardiac sarcoidosis treated with cardiac resynchronization therapy	Heart Rhythm. 2022 Jul; 19(7): 1133-1140 PMID: 35257978	Original Article
43	Masashi Yokoi, Tsuyoshi Ito, Yu Kawada, 他	循環器内科	Malondialdehyde-Modified Low-Density Lipoprotein as a Predictor of Major Adverse Limb Events after Endovascular Therapy in Patients with Lower Extremity Arterial Disease.	Journal of Atherosclerosis 2023 Mar 9. doi: 10.5551/jat.64091. Online ahead of print. PMID: 36889737	Original Article

44	Masashi Yokoi, Tsuyoshi Ito, Takafumi Nakayama,他	循環器内科	Effects of hemodialysis and reduced estimated glomerular filtration rate in nonhemodialysis on clinical outcomes after fractional flow reserve-guided deferral of revascularization.	Medicine (Baltimore). 2022;101(20):e29256. PMID: 35608428	Original Article
45	Tatsuya Mizoguchi, Tomonori Sugiura, Yu Kawada,他	循環器内科	Association Between Aortic Stiffness and Exercise Tolerance in Patients at the Risk Stage of Heart Failure.	Circulation Journal. 2023 Mar 21. doi: 10.1253/circj.CJ-22-0772. Epub ahead of print. PMID: 36948631.	Original Article
46	Yasuhiro Shintani, Takafumi Nakayama, 他	循環器内科	Clinical impact of the pathological quantification of myocardial fibrosis and infiltrating T lymphocytes using an endomyocardial biopsy in patients with hypertrophic cardiomyopathy	International Journal of Cardiology 2022 Sep 1;362:110-117. doi: 10.1016/j.ijcard.2022.05.068. Epub 2022 May 31. PMID: 35662562	Original Article
47	Takafumi Nakayama, Junki Yamamoto, Toshikazu Ozeki, 他	循環器内科	Impact of left ventricular hypertrophy on clinical outcomes in patients with dialysis: a single-center study in Japan.	Journal of Medical Ultrasonics. 2022 ;49:241-252. PMID: 35298744.	Original Article
48	Takafumi Nakayama, Junki Yamamoto, Toshikazu Ozeki, 他	循環器内科	Non-A Blood Type Is a Risk Factor for Poor Cardio-Cerebrovascular Outcomes in Patients Undergoing Dialysis.	Biomedicines. 2023 Feb 16;11(2):592. doi: 10.3390/biomedicines11020592. PMID: 36831128	Original Article
49	Tomonori Sugiura, Hiroyuki Takase, Masashi Machii, 他	循環器内科	Blood pressure variability and the development of hypertensive organ damage in the general population.	J Clin Hypertens (Greenwich). 2022 Nov;24(11):1405-1414. PMID: 35708714	Original Article
50	Tomonori Sugiura, Yasuaki Dohi, Yasuyuki Takagi,他	循環器内科	Increased Impact of Serum Uric Acid on Arterial Stiffness and Atherosclerosis in Females.	Journal of Atherosclerosis and Thrombosis. 2022;29(11):1672-1691. PMID: 35110425.	Original Article
51	Hiroshi Fujita, Tsuyoshi Ito, Shohei Kikuchi, 他	循環器内科	Postprocedural ascending aortic dissection after transcatheter aortic valve implantation: a case report	Eur Heart J Case Rep. 2022 Dec 27;7(1):ytac486. doi: 10.1093/ehjcr/ytac486. PMID: 36685099	Case report
52	Tsuyoshi Ito, Takafumi Nakayama, Ken Ito,他	循環器内科	Spontaneous resolution of residual leakage after covered stent implantation for coronary artery aneurysm with dual-guiding catheter technique.	Cardiovasc Interv Ther. 2022 Jul;37(3):578-579. PMID: 35060014.	Original Article

53	Masashi Yokoi, Tsuyoshi Ito, Junki Yamamoto,他	循環器内科	A Case of Intraprocedural Thrombotic Events During Percutaneous Coronary Intervention Due to Acquired Antithrombin Deficiency-related Heparin Resistance Successfully Treated with Antithrombin Gamma Supplementation.	Intern Med Advance Publication DOI: 10.2169/internalmedicine.0720-22 PMID: 36351584	Original Article
54	Masashi Yokoi, Tsuyoshi Ito, Hiroshi Fujita, 他	循環器内科	Cardiac Magnetic Resonance Assessment of Acute Myocardial Infarction Involving the Right Ventricle	Circulation Journal 2022 Nov 25;86(12):2044. doi: 10.1253/circj.CJ-22-0486 PMID: 36171083	Original Article
55	Tatsuya Mizoguchi, Masashi Yokoi, Yasuhiro Shintani, 他	循環器内科	A case of an elderly female who developed subacute pleuropericarditis following BNT162b2 mRNA COVID-19 vaccination.	Journal of Cardiology Cases. 2022 Sep;26(3):225-228. doi: 10.1016/j.jccase.2022.04.020. Epub 2022 May 17. PMID: 35600413; PMCID: PMC9110567.	Original Article
56	Satoru Sekimoto, Yoshimasa Murakami, Yoshihiro Seo	循環器内科	Atrial echo beats as a novel mechanism of periodic fluctuation in cycle length of atrial tachycardia.	Pacing Clin Electrophysiol. 2023 Feb 15. doi: 10.1111/pace.14671. Epub ahead of print. PMID: 36794306.	Original Article
57	Tomofumi Nakatsukasa, Tomoko Ishizu, Masumi Ouchi,他	循環器内科	Sodium Glucose Co-Transporter 2 Inhibitors Improve Renal Congestion and Left Ventricular Fibrosis in Rats With Hypertensive Heart Failure.	Circ J. 2022;86(12):2029-2039. PMID: 35944977.	Original Article
58	Chia-Hung Yang, Masaki Takeuchi, Yosuke Nabeshima, 他	循環器内科	Prognostic Value of Apical Sparing of Longitudinal Strain in Patients with Symptomatic Aortic Stenosis.	Acta Cardiol Sin. 2022;38(3):341-351. PMID: 35673342	Original Article
59	Doyeon Hwang, Bon-Kwon Koo, Jinlong Zhang,	循環器内科	Prognostic Implications of Fractional Flow Reserve After Coronary Stenting: A Systematic Review and Meta-analysis	JAMA Netw Open. 2022 ;5:e2232842. PMID: 36136329	Original Article
60	Masashi Yamamoto, Tomoko Ishizu, Yoshihiro Seo,他	循環器内科	Pathophysiological role of right ventricular function and interventricular functional mismatch in the development of pulmonary edema in acute heart failure.	J Cardiol. 2022;79(6):711-718. PMID: 34924232.	Original Article
61	Kosuke Hayashi, Tsuyoshi Ito, Kenta Hachiya, 他	循環器内科	Kosuke Hayashi, Tsuyoshi Ito, Kenta Hachiya, 他	Intern Med. 2022;61:3369-3372. PMID: 35400706	Case report

62	Suzuki T, Maruyama D, Iida S, Nagai H.	血液・腫瘍内科	Recent advances in the management of older adults with newly diagnosed multiple myeloma in Japan.	Jpn J Clin Oncol.2022 Sep,18;52(9):966-974	Review
63	Hirade K, Kusumoto S, Abe A,et.al.	血液・腫瘍内科	A novel RARA-SNX15 fusion in PML-RARA-positive acute promyelocytic leukemia with t(11;17;15)(q13;q21.2;q24.1).	Int J Hematol. 2022,Dce;116(6):956-960	Original Article
64	Iida S, Nakakoji M, Spanopoulos D, et al.	血液・腫瘍内科	Practice patterns and outcomes for triple-class exposed patients with relapsed/refractory multiple myeloma in Japan	Future Oncol. 2022 Nov 4. 18(34)3839-3852 .	Original Article
65	Kinoshita S, Komatsu H, Fujinami H, et al.	血液・腫瘍内科	Recurrent pain attacks during romiplostim treatment in a patient with ITP carrying a heterozygous MEFV mutation	Int J Hematol . 2023 Feb;117(2):283-286	Case report
66	Suzuki T, Kusumoto S, Kamezaki Y, et.al.	血液・腫瘍内科	A comprehensive evaluation of humoral immune response to second and third SARS-CoV-2 mRNA vaccination in patients with malignant lymphoma	Int J Hematol . 2023 Jun;117(6):900-909.	Original Article
67	Iida S, Ishida T, Miyamoto T, Teramukai S,et al.	血液・腫瘍内科	MEdical Database AnaLysIS of Japanese multiple myeloma patienTs with apheresis #2 (MEDALIST-2): the impact of plerixafor use on costs and healthcare resources during mobilization and stem cell transplantation	Int J Hematol . 2022 Sep;116(3):411-422.	Original Article
68	Suzuki T, Kusumoto S, Kamezaki Y,et al.	血液・腫瘍内科	Humoral and cellular immune response to second and third severe acute respiratory syndrome coronavirus 2 mRNA vaccine in patients with plasma cell dyscrasia	Cancer Med . 2023 Jun;12(12):13135-13144	Original Article
69	Suzuki T, Yokomori R, Sanda T, et al.	血液・腫瘍内科	Genomic analysis of a therapy-related chronic myelomonocytic leukemia with KMT2A rearrangement that progressed to acute myeloid leukemia with acute promyelocytic leukemia-like features	Front Oncol . 2023 Feb 17;13:1116418.	Case report
70	Hagiwara S, Kusumoto S, Inoue T,et al.	血液・腫瘍内科	Management of hepatitis B virus (HBV) reactivation in patients with resolved HBV infection based on a highly sensitive HB core-related antigen assay	Hepatol Res . 2022 Sep;52(9):745-753.	Original Article

71	Ri M, Suzuki K, Ishida T,et al.	血液・腫瘍内科	Ciltacabtagene autoleucel in patients with relapsed/refractory multiple myeloma: CARTITUDE-1 (phase 2) Japanese cohort	Cancer Sci . 2022 Dec;113(12):4267-4276	Original Article
72	Madokoro Y, Mizuno M, Matsukawa N 他	脳神経内科	Painful legs and moving toes syndrome associated with dementia with Lewy bodies responsive to rotigotine-induced analgesia	Neurol Sci. 2022 Nov;43(11):6569-6570	Case report
73	Kawashima S; RCIP-Nagoya Study Group; Matsukawa N.	脳神経内科	Memantine for the patients with mild cognitive impairment in Parkinson's disease: a pharmacological fMRI study.	BMC Neurol. 2022 May 13;22(1):175.	Original Article
74	noue H, Oomura M, Matsukawa N.	脳神経内科	New Cortical Spot Cerebral Infarction Out of Border Zone in ICA Occlusion Suggests Recanalization: A Case Report	NMC Case Rep J. 2022 Apr 1;9:49-53.	Case report
75	noue H, Oomura M, Matsukawa N.	脳神経内科	Aplastic or twig-like middle cerebral artery and cardiogenic cerebral embolism mimicking moyamoya disease with RNF213 polymorphism: A case report	Interv Neuroradiol. 2022 Dec;28(6):634-638.	Case report
76	Hamano T, Imaizumi T, Haswgawa T 他	腎臓内科	Biopsy-proven CKD etiology and outcomes: the Chronic Kidney Disease Japan Cohort (CKD-JAC) study	Nephrol Dial Transplant 2023; 38: 384-395	Original Article
77	Murashima M, Hamano T, Nishiyama T 他	腎臓内科	Performance status modifies the association between vitamin D receptor activator and mortality or fracture: A prospective cohort study on JSDT Renal Data Registry	J Bone Miner Res 2022; 37: 1489-1499	Original Article
78	Murashima M, Tanaka T, Kasugai T 他	腎臓内科	Sodium-glucose cotransporter 2 inhibitors and anemia among diabetic patients in real clinical practice.	J Diabetes Investig 2022; 13: 638-646	Original Article
79	Ito Sunao, Ogawa Ryo, Saito Masaki,et al.	消化器・一般外科	Laparoscopic gastrectomy for gastric cancer with two left gastric arteries: Safe and adequate lymphadenectomy in a rare arterial abnormality	Asian J Endosc Surg.2023 Jan;16(1):105-109.	Case report

80	Hayakawa Shunsuke, Ogawa Ryo, Ueno Shuhei,et al.	消化器・一般外科	Impact of the indocyanine green fluorescence method for anastomotic blood flow in robotic distal gastrectomy	Surg Today, 2022 Oct;52(10):1405-1413	Original Article
81	Hayakawa Shunsuke, Tanaka Tatsuya, Ogawa Ryo,et al.	消化器・一般外科	Potential Role of TRPV4 in Stretch-Induced Ghrelin Secretion and Obesity	Int J Endocrinol. 2022 Nov 8;2022:7241275.	Original Article
82	Ueno Shuhei, Murashima Miho, Ogawa Ryo, et al.	消化器・一般外科	The cisplatin-induced acute kidney injury is a novel risk factor for postoperative complications in patients with esophageal cancer: a retrospective cohort study	BMC Surg. 2023 Mar 27;23(1):67.	Original Article
83	Hiroki Takahashi, Anri Maeda, Shinnosuke Harata 他	消化器・一般外科	Robot-assisted laparoscopic abdominoperineal resection with en bloc prostatectomy using the Retzius-sparing robot-assisted radical prostatectomy technique	Asian J Endosc Surg. 2022 Jul;15(3):688-692.	Original Article
84	Takuya Suzuki, Takahisa Hirokawa, Anri Maeda 他	消化器・一般外科	ATR inhibitor AZD6738 increase the sensitivity of colorectal cancer cells to 5-fluorouracil by inhibiting repair of DNA damage	Oncol Rep. 2022 Apr;47(4):78.	Original Article
85	Nozomu Nakai, Masayasu Hara, Hiroki Takahashi 他	消化器・一般外科	Cancer cell-induced tissue inhibitor of metalloproteinase-1 secretion by cancer-associated fibroblasts promotes cancer cell migration	Oncol Rep. 2022 Jun;47(6):112.	Original Article
86	Saito K, Morimoto M, Denda Y, et al	消化器・一般外科	Accurate intraoperative real-time blood flow assessment of the remnant stomach during robot-assisted distal pancreatectomy with celiac axis resection using indocyanine green fluorescence imaging and	Asian Journal of Endoscopic Surgery. 2023 Jul;16(3):386-392	Original article
87	Saito K, Morimoto M, Denda Y, et al	消化器・一般外科	Neuroendocrine carcinoma of the minor papilla with pancreas divisum: a review of the literature and report of a case	Journal of Medical Case Reports. 2023 Mar 28;17(1):127	Case report
88	Oda R, Okuda K, Yamada T,et al.	呼吸器外科	Comparison of the efficacy of novel two covering methods for spontaneous pneumothorax: a multi-institutional study.	BMJ Open Respir Res. 2022 Apr;9(1):e001231	Case report

89	Nakamura R, Okuda K, Chiba K,et al.	呼吸器外科	A large intrathoracic goiter with tracheal stenosis: Complete resection using a robot-assisted thoracoscopic approach.	Thorac Cancer, 2022 Jun;13(12):1874-1877	Case report
90	Yokota K, Okuda K, Fukai I,et al.	呼吸器外科	Extended Bronchoplasty Anastomosed between the Left Main and the Superior Segmental Bronchi for Locally Advanced Left Upper Lobe Lung Cancer with Invasion of the Basal Segment.	Ann Thorac Cardiovasc Surg. 2022 Aug 20;28(4):293-297	Case report
91	Yokota K, Okuda K, Haneda H,et al.	呼吸器外科	A single-center analysis of 71 patients with thymic carcinoma: The chronological changes in the surgical procedure and prognosis.	J Thorac Dis. 2022 Sep;14(9):3211-3220	Original Article
92	Matsui T, Takahashi Y, Nakada T,et al.	呼吸器外科	Preoperative percutaneous needle indigo carmine and lipiodol mixture marking in lung segmentectomy.	Eur J Cardiothorac Surg. 2022 Sep 2;62(4):ezac432	Original Article
93	Nakai Yosuke, Toshiyuki Yamada, Ogawa Shinji, et al.	心臓血管外科	Surgical outcomes of acute type A aortic dissection in septuagenarians and octogenarians.	Asian Cardiovascular & Thoracic Annals. 2022 sep; 30: 772-778	Original Article
94	Nakai Yosuke, Nishikawa Yusuke, Saito Takayuki	心臓血管外科	Single-stage repair for ascending aortic aneurysm, artery stenosis and occlusion of neck vessels caused by Takayasu arteritis	Interactive CardioVascular and Thoracic Surgery. 2022 July(オンライン)	Case report
95	Okamoto H, Kawaguchi Y, Miwa S, et al.	整形外科	Reverse lateral upper arm flaps for treating large soft tissue defects extending from the elbow to the forearm	Case Reports Plast Surg Hand Surg 9 : 145-150	Case report
96	Kuroyanagi G, Kawabata T, Tokuda H, et al.	整形外科	Attenuation by HSP90 inhibitors of EGF-elicited migration of osteoblasts: involvement of p44/p42 MAP kinase.	Connect Tissue Res 63 : 359-369	Original Article
97	Kuroyanagi G , Tokuda H, Fujita K, et al.	整形外科	Upregulation of TGF-β-induced HSP27 by HSP90 inhibitors in osteoblasts.	BMC Musculoskelet Disord 23 : 495	Original Article

98	Kuroyanagi G, Taichi J, Fujita K, et al.	整形外科	HSP70 inhibitors upregulate prostaglandin E1-induced synthesis of interleukin-6 in osteoblasts.	PLoS One 17 : e0279134	Original Article
99	Yagi K, Suzuki N, Mizutani J, et al.	整形外科	Segmental Arteries and Veins at Higher Lumbar Levels Can Intersect the Adjacent Caudal Intervertebral Disc in the Anterior Part of the Spinal Column: A Cadaveric Analysis.	Asian Spine J 16 : 1-8	Original Article
100	Yagi K, Kishima K, Tezuka F, et al.	整形外科	Advantages of revision transforaminal full-endoscopic spine surgery in patients who have previously undergone posterior spine surgery.	J Neurol Surg A Cent Eur Neurosurg. Online ahead of print	Original Article
101	Yagi K, Kishima K, Tezuka F, et al.	整形外科	A Technical Pitfall of Decompression with Direct Repair of a Ragged Edge Using the Smiley-Face Rod Method : A Case Report	J Med Invest 69 : 308-311	Case report
102	Aiba H, Nakazato T, Matsuo H, et al.	整形外科	Bone Metastases from Gastric Cancer Resembling Paget's Disease: A Case Report	Journal of Clinical Medicine 11 : 7306	Case report
103	Aiba H, Suzuki N, Sagawa H, et al.	整形外科	Protocol for a randomized study of the efficacy of ibandronic acid plus eldecalcitol in patients with gastric cancer after gastrectomy: A comparative study of different routes of administration of	F1000 Research 11 : 796	Others
104	Aiba H, Watanabe N, Inagaki T, et al.	整形外科	Differences among the observers in the assessments of Japanese orthopedic association hip scores between surgeons and physical therapists and the correlations to patients' reported outcomes after total hip	BMC Musculoskeletal Disorders 23 : 1	Original Article
105	Takeda S, Yoneda H, Tatebe M, et al.	整形外科	Satisfactory mid- to long-term clinical and radiographic outcomes after surgical treatment of radial neck fracture in 10 children.	Nagoya J Med Sci. 84 : 539-546	Original Article
106	Takeda S, Yoneda H, Mitsuya S, et al.	整形外科	The ipsilateral distal upper arm can be useful in harvesting the nonvascularized perifascial areolar tissue for hand injuries.	J Plast Reconstr Aesthet Surg. 75 : 1261-1282	Original Article

107	Inoue J, Takenaga T, Tsuchiya A, et al.	整形外科	Ultrasonographic Assessment of Glenohumeral Joint Stability Immediately After Arthroscopic Bankart-Bristow Procedure	Orthop J Sports Med 23259671221131600	Original Article
108	Inoue J, Takenaga T, Tsuchiya A, et al.	整形外科	Ultrasound Assessment of Anterior Humeral Head Translation in Patients With Anterior Shoulder Instability: Correlation With Demographic, Radiographic, and Clinical Data	Orthop J Sports Med 8 : 23259671221101900	Original Article
109	Usami T, Nishida K, Iguchi H, et al.	整形外科	Evaluation of lower extremity gait analysis using Kinect V2® tracking system.	SICOT J 8 : 27	Original Article
110	Sugiura-Ogasawara M, Sato T	産科婦人科	The uncertain science of preimplantation genetic testing in Japan.	Nat Med 28: 1732-1733	Others
111	Goto Takato, Kitaori Tamao 他	産科婦人科	The association between chronic deciduitis and recurrent pregnancy loss	J Reprod Immunol. 2023 Mar;156:103824.	Original Article
112	Kumagai K, Murotsuki J, Dohi S, 他	産科婦人科	Does a cervical pessary reduce the rate of preterm birth in women with a short cervix?	J Perinat Med 2022; 50: 1107-1114.	Original Article
113	Matsumoto Y, Shinjo K, Mase S, 他	産科婦人科	Characteristic DNA methylation profiles of chorionic villi in recurrent miscarriage.	Sci Rep 2022; 12: 11673.	Original Article
114	Hassan E, Kojima R, Ozawa F, 他	産科婦人科	Abnormal ciliogenesis in decidual stromal cells in recurrent miscarriage.	J Reprod Immunol 2022; 150: 103486.	Original Article
115	Kato Shin, Ito Masato, Saito Makoto 他	小児科	Severe bronchopulmonary dysplasia in extremely premature infants: a scoping review protocol for identifying risk factors.	BMJ Open. 2022; 12: e062192	Original Article

116	Kamei Michi, Mohamed Hamed Hussein, Hattori Ayako 他	小児科	Oxidative and Inflammatory Markers Are Higher in Full-Term Newborns Suffering Funisitis, and Higher Oxidative Markers Are Associated with Admission.	Children (Basal). 2022; 9: 10	Original Article
117	Kato Shin, Iwata Osuke, Iwata Sachiko 他	小児科	Admission temperature of very low birth weight infants and outcomes at three years old.	Sci Rep. 2022; 12: 11912	Original Article
118	Otsuji Shiomi, Nishio Yosuke, Tsujita Maki 他	小児科	Clinical diversity and molecular mechanism of VPS35L-associated Ritscher-Schinzel syndrome.	J Med Genet. 2023; 60: 359-367	Original Article
119	Nakamura Yasuhisa, Iwata Sachiko, Yokoi Kyoko 他	小児科	Influence of Intrauterine Inflammation, Delivery, and Postnatal Feeding on the Temporal Changes of Serum Alpha 1 Acid Glycoprotein Levels in Extremely-Low-Birth-Weight Infants.	Nutrients. 2022; 14: 5162	Original Article
120	Negishi Yutaka, Kurosawa Kenji, Takano Kyoko 他	小児科	A nationwide survey of Schaaf-Yang syndrome in Japan	J Hum Genet. 2022; 67: 735-738	Original Article
121	Iwata Sachiko, Katayama Reiji, Tsuda Kennosuke 他	小児科	Near-infrared light scattering and water diffusion in newborn brains.	Ann Clin Transl Neurol. 2022; 9: 1417-1427	Original Article
122	Tsuda Kennosuke, Shibasaki Jun, Isayama Tetsuya 他	小児科	Three-year outcome following neonatal encephalopathy in a high-survival cohort.	Sci Rep. 2022; 12: 7945	Original Article
123	Yamaguchi Naoya, Suzuki Atsushi, Yoshida Aya 他	小児科	The iodide transporter Slc26a7 impacts thyroid function more strongly than Slc26a4 in mice	Sci Rep. 2022; 12: 11259	Original Article
124	Nakaoka Akiko, Nomura Takayasu, Ozeki Kazuyoshi 他	小児科	Two cases of transplant-acquired food allergy who developed resensitization after a negative oral food challenge.	Allergy Asthma Clin Immunol. 2023; 19: 24	Case report

125	Fujimoto Masanori, Nakamura Yuji, Iwaki Toshihiko 他	小児科	Angelman syndrome with mosaic paternal uniparental disomy suggestive of mitotic nondisjunction	J Hum Genet. 2023; 68: 87-90	Case report
126	Yoshida Aya, Aoyama Kohei, Yamaguchi Naoya 他	小児科	An infant with a heterozygous variant of ABCG5 presented with hypercholesterolemia only during breastfeeding.	Clin Pediatr Endocrinol. 2023; 32: 114-118	Original Article
127	Yoshida Aya, Kaneko Koya, Aoyama Kohei 他	小児科	Relationship between Birth Order and Postnatal Growth until 4 Years of Age: The Japan Environment and Children's Study.	Children (Basal). 2023; 10: 557	Original Article
128	Inoue Naomi, Kato Aki, Araki Takashi 他	眼科	Visual prognosis of submacular hemorrhage secondary to age-related macular degeneration: a resrospective multicenter survey.	PLoS One. 2022 Jul; 17: e0271447	Original Article
129	Yuguchi Takaaki, Ogura Shuntaro, Hirano Yoshio 他	眼科	AUTOLOGOUS POSTERIOR CAPSULE FLAP TRANSPLANTATION IN THE MANAGEMENT OF REFRACTORY MACULAR HOLE IN A PSEUDOPHAKIC EYE	Retinal Cases Brief Reports, 2023 Mar; 17: 85-88.	Case report
130	Iwasaki Shinichi, Kamogashira Teru, Fujimoto Chisato 他	耳鼻いんこう科	The Role of Neck Input in Producing Corrective Saccades in the Head Impulse Test	Front Neurol. 2022 May (オンライン)	Original Article
131	Iwasaki Shinichi, Shojaku Hideo, Kawahara Takuya 他	耳鼻いんこう科	Estimated prevalence and characteristics of bilateral vestibulopathy diagnosed in Japan: A nationwide survey	Auris Nasus Larynx. 2022 Jun; 49(3): 347-351	Original Article
132	Matoba Takuma, Minohara Kiyoshi, Kawakita Daisuke 他	耳鼻いんこう科	Impact of tumor burden on survival in patients with recurrent or metastatic head and neck cancer treated with immune checkpoint inhibitors	Sci Rep. 2022 Aug; 12(1): 14319	Original Article
133	Kabaya Kayoko, Katsumi Sachiyo, Fukushima Akina 他	耳鼻いんこう科	Assessment of semicircular canal function in benign paroxysmal positional vertigo using the video head impulse test and caloric test	Laryngoscope Investig Otolaryngol. 2023 Feb; 8(2): 525-531	Original Article

134	Sanuki Tetsuji	耳鼻いんこう科	Spasmodic dysphonia: An overview of clinical features and treatment options	Auris Nasus Larynx . 2023 Feb; 50(1): 17-22	Original Article
135	Takemoto Naoki, Sanuki Tetsuji, Esaki Sinichi 他	耳鼻いんこう科	Rabbit model with vocal fold hyperadduction	Auris Nasus Larynx. 2022 Oct; 49(5): 810-815	Original Article
136	Sanuki Tetsuji, Nishimura Tsutomu, Aburada Takako 他	耳鼻いんこう科	Titanium bridge modification for type 2 thyroplasty to improve device mechanical & safety performance	Auris Nasus Larynx. 2022 Jun; 49(3): 460-467	Original Article
137	Sanuki Tetsuji, Oridate Nobuhio, Tateya Ichiro 他	耳鼻いんこう科	Validity of intraoperative voice monitoring undergoing type 2 thyroplasty with titanium bridges for adductor spasmodic dysphonia	Laryngoscope Investig Otolaryngol. 2022 Aug; 7(5): 1481-1490	Original Article
138	Kawakita Daisuke, Nagao Toshitaka, Takahashi Hideaki 他	耳鼻いんこう科	Survival benefit of HER2-targeted or androgen deprivation therapy in salivary duct carcinoma	Ther Adv Med Oncol. 2022 Sep（オンライン）	Original Article
139	Kawakita Daisuke, Oze Isao, Iwasaki Shinichi 他	耳鼻いんこう科	Trends in the incidence of head and neck cancer by subsite between 1993 and 2015 in Japan	Cancer Med. 2022 Mar; 11(6): 1553-1560	Original Article
140	Iwaki Sho, Kawakita Daisuke, Sawabe Michi 他	耳鼻いんこう科	Long-term efficacy of weekly paclitaxel therapy in unresectable primary squamous cell carcinoma of the thyroid	Auris Nasus Larynx. 2022 Dec; 49(6): 1083-1087	Case report
141	Nojiri Y, Nakamura M, Magara T, Yamamoto A, Ikumi K, Nakamura R, Nishida E, Haarmann-	皮膚科	Influence of aldo-keto reductase 1C3 polymorphisms in early-onset female psoriasis patients.	Sci Rep. 2023 Feb 25;13(1):3280	Original Article
142	Kano S, Nakamura M, Nojiri Y, Magara T, Yoshimitsu M, Kato H, Morita A	皮膚科	Differences in the immune microenvironment between improved and non-improved cases of vitiligo after halo nevus excision.	J Dermatol Sci. 2023 Mar;109(3):136-142	Original Article

143	Ikumi K, Torii K, Sagawa Y, Kanayama Y, Nakada A, Nishihara H, Morita A	皮膚科	Phosphodiesterase 4 inhibitor apremilast improves insulin resistance in psoriasis patients	J Dermatol. 2022 Apr;49(4):e125-e126.	Letter
144	Yasui Y, Kato H, Oda T, Nakamura M, Morita A	皮膚科	Complications and risk factors of punch biopsy: A retrospective large-scale study.	J Dermatol. 2023 Jan;50(1):98-101.	Original Article
145	Matsubara A, Tsuchida N, Sakurai M, Maeda A, Uchiyama Y, Sasaki K, Haji Y, Kirino Y	皮膚科	A case of VEXAS syndrome with Sweet's disease and pulmonary involvement.	J Dermatol. 2022 May;49(5)	Case report
146	Ikumi K, Torii K, Kio T, Masuda H, Kanayama Y, Morita A	皮膚科	A case of mycosis fungoides effectively treated with ultraviolet light A 1-light-emitting diode phototherapy.	Photodermatol Photoimmunol Photomed. 2023 Jan;39(1):69-71.	Case report
147	Etani Toshiki, Asaoka Minami, Kondo Shuhei, et al.	泌尿器科	Efficacy of fosfomycin in preventing infection after endoscopic combined intrarenal surgery in periods of limited supply of first- and second-generation cephalosporins	IJU. 2022 Sep; 29(9): 977-982	Original Article
148	Taguchi Kazumi, Hamamoto Shuzo, Okada Atsushi, et al.	泌尿器科	A randomized, single-blind clinical trial comparing robotic-assisted fluoroscopic-guided with ultrasound-guided renal access for percutaneous nephrolithotomy	J Urol. 2022 Sep; 208(3): 684-694	Original Article
149	Naiki Taku, Naiki-Ito Aya, Kawai Tatsuya, et al.	泌尿器科	A case of metastatic treatment-emergent small cell/neuroendocrine prostate cancer with BRCA2 mutation diagnosed by liver biopsy	IJU Case Reports. 2022 Jun; 5(6): 431-435	Case report
150	Isogai Masahiko, Hamamoto Shuzo, Kawase Kengo, et al.	泌尿器科	Efficacy of ultrasound monitoring during extracorporeal shock wave lithotripsy: A multi-institutional propensity score-matched study	IJU. 2022 Sep; 29(9): 1054-1060	Original Article
151	Shimizu Nobuhiko, Moritoki Yoshinobu, Katsumi Nao, et al.	泌尿器科	Plasmacytoid Urothelial Carcinoma of the Bladder That Manifests Disseminated Carcinomatosis of the Bone Marrow: A Case Report of Extremely Rapid Progression	Case Rep Urol. 2022 Sep; 6082700	Case report

152	Gonda Masakazu, Etani Toshiki, Isogai Masahiko, et al.	泌尿器科	A rare case of a clear cell carcinoma in a female urethral diverticulum	IJU Case Reports. 2022 Oct; 6(1): 77-80	Case report
153	Sugino Teruaki, Taguchi Kazumi, Unno Rei, et al.	泌尿器科	Microdamage analysis of single-use flexible ureteroscope immediately after lithotripsy use	Scientific Reports. 2022 Nov; 12(1): 18367	Case report
154	Unno Rei, Taguchi Kazumi, Gregory Hosier, et al.	泌尿器科	Maternal family history of urolithiasis is associated with earlier age of onset of stone disease	World J Urol. 2023 Jan; 41(1): 241-247	Original Article
155	Unno Rei, Gregory Hosier, Fadl Hamouche, et al.	泌尿器科	Single-Use Ureteroscopes Are Associated with Decreased Risk of Urinary Tract Infection After Ureteroscopy for Urolithiasis Compared to Reusable Ureteroscopes	J Endourol. 2023 Feb; 37(2): 133-138	Original Article
156	Kawase Kengo, Hamamoto Shuzo, Taguchi Kazumi, et al.	泌尿器科	Impact of pelvicalyceal anatomical variation on surgical outcomes of endoscopic combined intrarenal surgery	BJUI compass. 2023 Mar; 4(2): 173-180	Original Article
157	Shimizu Nobuhiko, Naya Yukio, Sekine Keita, et al.	泌尿器科	Laparoscopic redo pyeloplasty with a buccal mucosal graft	IJU Case Reports. 2023 Mar; 6(2): 124-127	Case report
158	Etani Toshiki, Asaoka Minami, Kondo Shuhei, et al.	泌尿器科	Efficacy of fosfomycin in preventing infection after endoscopic combined intrarenal surgery in periods of limited supply of first- and second-generation cephalosporins	IJU. 2022 Sep; 29(9): 977-982	Original Article
159	Taguchi Kazumi, Hamamoto Shuzo, Okada Atsushi, et al.	泌尿器科	A randomized, single-blind clinical trial comparing robotic-assisted fluoroscopic-guided with ultrasound-guided renal access for percutaneous nephrolithotomy	J Urol. 2022 Sep; 208(3): 684-694	Original Article
160	Naiki Taku, Naiki-Ito Aya, Kawai Tatsuya, et al.	泌尿器科	A case of metastatic treatment-emergent small cell/neuroendocrine prostate cancer with BRCA2 mutation diagnosed by liver biopsy	IJU Case Reports. 2022 Jun; 5(6): 431-435	Case report

161	Isogai Masahiko, Hamamoto Shuzo, Kawase Kengo, et al.	泌尿器科	Efficacy of ultrasound monitoring during extracorporeal shock wave lithotripsy: A multi-institutional propensity score-matched study	IJU. 2022 Sep; 29(9): 1054-1060	Original Article
162	Shimizu Nobuhiko, Moritoki Yoshinobu, Katsumi Nao, et al.	泌尿器科	Plasmacytoid Urothelial Carcinoma of the Bladder That Manifests Disseminated Carcinomatosis of the Bone Marrow: A Case Report of Extremely Rapid Progression	Case Rep Urol. 2022 Sep; 6082700	Case report
163	Gonda Masakazu, Etani Toshiki, Isogai Masahiko, et al.	泌尿器科	A rare case of a clear cell carcinoma in a female urethral diverticulum	IJU Case Reports. 2022 Oct; 6(1): 77-80	Case report
164	Sugino Teruaki, Taguchi Kazumi, Unno Rei, et al.	泌尿器科	Microdamage analysis of single-use flexible ureteroscope immediately after lithotripsy use	Scientific Reports. 2022 Nov; 12(1): 18367	Case report
165	Unno Rei, Taguchi Kazumi, Gregory Hosier, et al.	泌尿器科	Maternal family history of urolithiasis is associated with earlier age of onset of stone disease	World J Urol. 2023 Jan; 41(1): 241-247	Original Article
166	Unno Rei, Gregory Hosier, Fadl Hamouche, et al.	泌尿器科	Single-Use Ureteroscopes Are Associated with Decreased Risk of Urinary Tract Infection After Ureteroscopy for Urolithiasis Compared to Reusable Ureteroscopes	J Endourol. 2023 Feb; 37(2): 133-138	Original Article
167	Kawase Kengo, Hamamoto Shuzo, Taguchi Kazumi, et al.	泌尿器科	Impact of pelvicalyceal anatomical variation on surgical outcomes of endoscopic combined intrarenal surgery	BJUI compass. 2023 Mar; 4(2): 173-180	Original Article
168	Shimizu Nobuhiko, Naya Yukio, Sekine Keita, et al.	泌尿器科	Laparoscopic redo pyeloplasty with a buccal mucosal graft	IJU Case Reports. 2023 Mar; 6(2): 124-127	Case report
169	Nishio Hidenori, Mizuno Kentaro, Matsumoto Daisuke, et al.	小児泌尿器科	A Novel Transvesicoscopic Ureteral Reimplantation Technique to Treat an Infantile Ectopic Ureter in a Single System	Urology. 2022 Jun; 164: 244-247	Original Article

170	Nishio Hidenori, Mizuno Kentaro, Kato Taiki, et al.	小児泌尿器科	Surgical management of prepubertal testicular tumors: A 30-year study in our institution	Int J Urol. 2023 Jun; 30: 521-5	Original Article
171	Nishio Hidenori, Mizuno Kentaro, Matsumoto Daisuke, et al.	小児泌尿器科	Conservative management of pubertal segmental testicular infarction associated with epididymitis	Urol Case Rep. 2023 Jun; 46: 102324	Case report
172	Nishio Hidenori, Mizuno Kentaro, Matsumoto Daisuke, et al.	小児泌尿器科	Ureterocele prolapse eliciting unusual patient behavior to control intermittent voiding	Urol Case Rep. 2022 Nov; 46: 102295	Case report
173	Akechi T, Kubota Y, Ohtake Y,et al	精神科	Clinical practice guidelines for the care of psychologically distressed bereaved families who have lost members to physical illness including cancer	Jpn J Clin Oncol. 2022 May 31;52(6):650-653.	Original Article
174	Akechi T, Mishiro I, Fujimoto S	精神科	Risk of major depressive disorder in adolescent and young adult cancer patients in Japan	Psychooncology . 2022 Jun;31(6):929-937	Original Article
175	Akechi T, Yamaguchi T, Uchida M, et al	精神科	Smartphone Psychotherapy Reduces Fear of Cancer Recurrence Among Breast Cancer Survivors: A Fully Decentralized Randomized Controlled Clinical Trial (J-SUPPORT 1703 Study)	J Clin Oncol . 2023 Feb 10;41(5):1069-1078.	Original Article
176	Azuma H, Akechi T	精神科	EEG correlates of quality of life and associations with seizure without awareness and depression in patients with epilepsy	Neuropsychopharmacol Rep . 2022 Sep;42(3):333-342	Original Article
177	Hasegawa T, Ito Y, Furukawa Y,et al	精神科	Specialized Palliative Care and Intensity of End-of-Life Care Among Adolescents and Young Adults with Cancer	J Adolesc Young Adult Oncol . 2023 Aug;12(4):488-495.	Original Article
178	Hasegawa T, Yamagishi A, Sugishita A,et al	精神科	Integrating home palliative care in oncology: a qualitative study to identify barriers and facilitators	Support Care Cancer . 2022 Jun;30(6):5211-5219.	Original Article

179	Toshishige Y, Kondo M, Okazaki J, et al	精神科	Interpersonal Psychotherapy for Bereavement-Related Major Depressive Disorder in Japan: A Systematic Case Report	Case Rep Psychiatry . 2022 Sep (オンライン)	Case report
180	Natsuo Tomita, Hiromichi Ishiyama , Chiyoko Makita, et al.	放射線科	Daily irradiation versus irradiation at two- to three-day intervals in stereotactic radiotherapy for patients with 1-5 brain metastases: study protocol for a multicenter open-label randomized phase II trial	BMC Cancer. . 2022 Dec 5;22(1):1259.	Original Article
181	Natsuo Tomita, Katsuhiro Okuda, Nozomi Kita, et al.	放射線科	Role of stereotactic body radiotherapy for early-stage non-small-cell lung cancer in patients borderline for surgery due to impaired pulmonary function.	Asia Pac J Clin Oncol. 2022 Dec; 18(6):634-641.	Original Article
182	Kita N, Tomita N, Takaoka T, et al	放射線科	Comparison of Recurrence Patterns between Adenocarcinoma and Squamous Cell Carcinoma after Stereotactic Body Radiotherapy for Early-Stage Lung Cancer.	Cancers (Basel). 2023 Jan 31;15(3):887.	Original Article
183	Takano S, Shibamoto Y, Wang Z, et al	放射線科	Optimal timing of a γ H2AX analysis to predict cellular lethal damage in cultured tumor cell lines after exposure to diagnostic and therapeutic radiation doses.	J Radiat Res. 2023 Mar 23;64(2):317-327.	Original Article
184	Kyoko Shida, Masahiro Ohsawa, Satoru Takahashi 他	麻酔科	Peripheral neuropathy in the pre-diabetic state of the type 2 diabetes mouse model (TSOD mice) involves TRPV1 expression in dorsal root ganglions	IBRO Neurosci Rep. 2022 Feb 8;12:163-169.	Original Article
185	Yuji Kamimura, Azusa Nagai, Toshiyuki Nakanishi 他	麻酔科	Intercristal line determined by palpation in parturients in the sitting and the lateral decubitus positions: a prospective observational study	J Anesth. 2022 Apr;36(2):270-275.	Original Article
186	Tatsuya Tsuji, Izumi Sato, Yuji Kamimura, Haruko Ota 他	麻酔科	Trends and patterns in the practice of pediatric sedation for magnetic resonance imaging in Japan: A longitudinal descriptive study from 2012 to 2019	Pediatric Anesthesia. 2022 May;32(5):673-684.	Original Article
187	Naoki Yamamoto, Takuya Tokumon, Ayako Obuchi 他	麻酔科	Poly(I:C) promotes neurotoxic amyloid β accumulation through reduced degradation by decreasing neprilysin protein levels in astrocytes	J Neurochem. 2022 Dec;163(6):517-530.	Original Article

188	Hiroshi Yamada, Motoki Tanikawa, Tomohiro Sakata他	脳神経外科	Usefulness of T2 Relaxation Time for Quantitative Prediction of Meningioma Consistency.	World Neurosurg 157:e484-e491, . 2022	Original Article
189	Hiroyasu Inoue, Masahiro Oomura, Yusuke Nishikawa他	脳神経外科	Direct Advancement of Balloon-Guide Catheter Distal to the Carotid Free-Floating Thrombus Achieves Smart Mechanical Thrombectomy.	Cureus 14(2):e22439, 2022.	Case report
190	Hiroyasu Inoue, Masahiro Oomura, Yusuke Nishikawa,他	脳神経外科	Aplastic or twig-like middle cerebral artery and cardiogenic cerebral embolism mimicking moyamoya disease with RNF213 polymorphism: A case report.	Interv Neuroradiol 28(6):634-638, 2022	Case report
191	Tomoyasu Yamanaka, Takatoshi Ueki, Mitsuhito Mase,他	脳神経外科	Arbitrary Ca2+ regulation for endothelial nitric oxide, NFAT and NF-κB activities by an optogenetic approach.	Front Pharmacol 13:1076116, 2023.	Original Article
192	Katano H, Mase M.	脳神経外科	Genetic and epigenetic interaction in stabilization mechanism of highly calcified carotid plaques.	Atherosclerosis 355: e112, 2022	Others
193	Tanikawa M*.	脳神経外科	Fully endoscopic occipital transtentorial approach for pineal region tumors.	Childs Nerv Syst 2022; https://doi.org/10.1007/s00381-022-05658-6	Original Article
194	Tanikawa M*, Sakata T, Yamada H他	脳神経外科	Endoscopic high occipital interhemispheric transtentorial approach for lesions in the anterosuperior cerebellum, upper fourth ventricle and upper dorsal brain stem.	World Neurosurgery 159:e260-e266, 2022	Original Article
195	Yamada S, Ishikawa M, Nakajima M, 他	脳神経外科	Reconsidering Ventriculoperitoneal Shunt Surgery and Postoperative Shunt Valve Pressure Adjustment: Our Approaches Learned from Past Challenges and Failures.	Front Neurol. 6;12:798488, 2022.	Review
196	Yamada S, Mitsuhito Mase.	脳神経外科	Cerebrospinal Fluid Production and Absorption, and Ventricular Enlargement Mechanisms in Hydrocephalus.	Neurologia medico-chirurgica.15:63(4):141-151 2022	Review

197	Shigeki Yamada, Yukihiko Aoyagi, Chifumi Iseki, 他	脳神経外科	Quantitative Gait Feature Assessment on Two-Dimensional Body Axis Projection Planes Converted from Three-Dimensional Coordinates Estimated with a Deep Learning Smartphone App	Sensors 23(2) 617-617 2023年1月5日	Original Article
198	Shigeki Yamada, Shinnosuke Hiratsuka, Tomohiro Otani,他	脳神経外科	Usefulness of intravoxel incoherent motion MRI for visualizing slow cerebrospinal fluid motion.	Fluids and barriers of the CNS 20(1) 16-16 2023年3月10日	Original Article
199	Hiroyasu INOUE, Masahiro OOMURA, Yusuke NISHIKAWA,	脳神経外科	New Cortical Spot Cerebral Infarction Out of Border Zone in ICA Occlusion Suggests Recanalization: A Case Report.	NMC Case Report Journal 9, 49-53, 2022 DOI: 10.2176/jns-nmc.2021-0403	Case report
200	Hiroyasu Inoue , Masahiro Oomura, Yusuke Nishikawa,他	脳神経外科	Successful Mechanical Thrombectomy for Acute Middle Cerebral Artery Occlusion in a Centenarian.	Cureus 14(2): e22071. DOI 10.7759/cureus.22071	Case report
201	Hiroyasu INOUE, Masahiro OOMURA, Yusuke NISHIKAWA, 他	脳神経外科	New Cortical Spot Cerebral Infarction Out of Border Zone in ICA Occlusion Suggests Recanalization: A Case Report	NMC Case Report Journal 9 49-53 2022年12月31日	Case report
202	Takashima H	歯科口腔外科	Three-Dimensional Printing of an Apigenin-Loaded Mucoadhesive Film for Tailored Therapy to Oral Leukoplakia and the Chemopreventive Effect on a Rat Model of Oral Carcinogenesis.	Pharmaceutics. 14(8):1575, 2022.	Original Article
203	Ishibashi K	歯科口腔外科	Efficacy of a deep leaning model created with the transfer learning method in detecting sialoliths of the submandibular gland on panoramic radiography.	Oral Surg Oral Med Oral Pathol Oral Radiol.133(2):238-244, 2022.	Original Article
204	Kato S	歯科口腔外科	Two cases of parapharyngeal space tumor resected by a double split mandibular osteotomy technique.	Clinical case reports. 10(12): e6786, 2022.	Case report
205	Matsui Ryohei, Sasano Hiroshi, Azami Takafumi 他	救急科	Effectiveness of a novel semi-closed barrier device with a personalized exhaust in cough aerosol simulation according to particle counts and visualization of particles	Indoor Air . 2022 Feb;32(2):e12988.	Original Article

206	Takahiro Goshima, Teruhiko Terasawa,Mitsunaga Iwata 他	救急科	Intracranial Hemorrhage Caused by Acute-Onset Severe Hypernatremia	J Community Hosp Intern Med Perspect . 2022 Sep 9;12(5):124-125	Case report
207	Kazunori Imai, Kohei Aoyama, Takato Goto 他	救急科	Hematocolpos due to lower vaginal agenesis in an adolescent girl.	Acute Med Surg . 2023 Mar 7;10(1):e832	Case report

計207件

（注）1　当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2　報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること（筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。）

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月（原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない）; 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
（出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月（オンライン掲載月）の後に（オンライン）と明記すること）。
記載例： Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 ／ Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report, Review, Letter, Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文（任意）

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
～					

計　件

（注）1　当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2　記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

（様式第 3）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3　高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1)倫理審査委員会の開催状況

①　倫理審査委員会の設置状況	有・無
②　倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・　手順書の主な内容 ・名古屋市立大学における医学系研究に係わる実施要綱（令和5年7月18日） ・名古屋市立大学医学系研究倫理審査委員会規程（令和5年7月18日） ・名古屋市立大学医学系研究倫理審査委員会（ＩＲＢ）標準業務手順書（令和5年7月18日） ・名古屋市立大学医学系研究倫理審査委員会（ＩＲＢ）事務局にかかる標準業務手順書（令和5年7月18日） 名古屋市立大学において、外部から依頼を受けてあるいは自ら計画して行われる医薬品、医療機器、再生医療等製品等の臨床試験、その他の医学系研究の実施するために必要な事項を「実施要綱」で定め、「医学系研究倫理審査委員会規程」を制定し、医学系研究の実施の適否その他の事項を調査、審議及び検討を行っている。なお、委員会の運営においては、「医学系研究倫理審査委員会（ＩＲＢ）標準業務手順書」にて運営に関する手続き及び記録の保存方法等の詳細を定め、「医学系研究倫理審査委員会（ＩＲＢ）事務局にかかる標準業務手順書」にて事務局の業務内容を定めている。	
③　倫理審査委員会の開催状況 （2022年度開催状況） 2022年4月13日，5月11日，6月1日，7月6日，8月3日，9月7日，10月5日，11月2日，12月7日，2023年1月11日，2月1日，3月1日	年 12 回 委員会開催審査の他、規程により迅速審査（書面審査）を随時実施。

（注）　1　倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に〇印を付けること。
　　2　前年度の実績を記載すること。

(2)利益相反を管理するための措置

①　利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
②　利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・　規定の主な内容 大学として利益相反の指針を示す「利益相反マネジメントポリシー」のもと、「利益相反マネジメント規程」及び「大学院医学研究科医学研究等利益相反委員会規程」を制定し、毎年各教員	

に対して利益相反に関する自己申告書の提出を義務付け、必要に応じ適宜ヒアリングを行っている。また、利益相反に関する専門的事項について調査・審議するため、全学的な組織として外部専門家を含めた利益相反委員会を設置している。 　なお、医学研究等にかかる利益相反に関しては、医学研究科内に大学院医学研究科医学研究等利益相反委員会を設置し、臨床研究実施前の事前申告、毎年1回の定期申告に基づいて適切な管理を行っている。	
③　利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 15 回

（注）前年度の実績を記載すること。

(3)臨床研究の倫理に関する講習等の実施

①　臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年　7 回
・研修の主な内容 「臨床研究実施セミナー（14回/年）」のうち、上記に合致する内容の開催状況は以下の7回 ・「本学における臨床研究の手続き等について」2022年4月20日開催　参加者数：176名 ・「第1回モニタリング講習会」2022年5月18日開催　参加者数：52名 ・「臨床研究法について」2022年7月11日開催　参加者数：53名 ・「臨床研究の手続き等について」2022年9月12日開催　参加者数：52名 ・「第2回モニタリング講習会」2022年10月13日開催　参加者数：30名 ・「知っておくべき研究倫理のポイント」2022年12月16日開催　参加者数：51名 ・「GCP及び倫理指針改正について」2023年2月14日開催　参加者数：57名	

（注）前年度の実績を記載すること。

（様式第 4）

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1　研修の内容

診療科ごとに各領域の専門医取得を目指す専門的な研修を実施している。また、診療科部長又は部長代理を研修統括者とした指導体制を整備し、目標、指導体制、診療実績、連携施設等を含めた研修プログラムをホームページで明示している。

（注）上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2　研修の実績

上記研修を受けた医師数	93.3人

（注）前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3　研修統括者

研修統括者氏名	診　療　科	役　職　等	臨床経験年数	特　記　事　項
兼松　孝好	総合診療科・総合内科	部長代理	29	
片岡　洋望	消化器内科	部長	33	
藤原　圭	肝・膵臓内科	部長	26	
新実　彰男	呼吸器・アレルギー内科	部長	37	
難波　大夫	リウマチ・膠原病内科	部長	28	
瀬尾　由広	循環器内科	部長	30	
田中　智洋	内分泌・糖尿病内科	部長	24	
飯田　真介	血液・腫瘍内科	部長	35	
松川　則之	脳神経内科	部長	34	
濱野　高行	腎臓内科	部長	24	
瀧口　修司	消化器・一般外科	部長	31	
奥田　勝裕	呼吸器外科	部長	22	
須田　久雄	心臓血管外科	部長	37	
近藤　知史	小児外科	部長	38	
遠山　竜也	乳腺外科	部長	33	
村上　英樹	整形外科	部長	29	
杉浦　真弓	産科婦人科	部長	37	
齋藤　伸治	小児科	部長	37	
安川　力	眼科	部長	24	
岩﨑　真一	耳鼻いんこう科	部長	30	
鳥山　和宏	形成外科	部長	33	
森田　明理	皮膚科	部長	33	
安井　孝周	泌尿器科	部長	28	
林　祐太郎	小児泌尿器科	部長	37	
明智　龍男	精神科	部長	31	
樋渡　昭雄	放射線科	部長	25	
祖父江　和哉	麻酔科	部長	29	
間瀬　光人	脳神経外科	部長	37	
渋谷　恭之	歯科口腔外科	部長	33	
植木　美乃	リハビリテーション科	部長	25	
稲垣　宏	臨床病態病理学	教授	38	
服部　友紀	救急科	部長	28	
井上　貴子	臨床検査科	部長	24	

（注）1　医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
（注）2　内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。
（注）3　外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

（様式第 4）

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4　医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

①　医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
様式4-2別紙　参照
②　業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
様式4-2別紙　参照
③　他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
様式4-2別紙　参照

（注）1　高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

（注）2　「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

4　医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修	研修の名称	研修の主な内容 （名称から読み取れる場合は記載不要です）	研修の期間 （開催日）	実施回数 （合計）	参加人数	対象職種	担当部署
①　医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況	看護師特定行為研修（厚生労働省指定研修機関番号および名称　2023009　名古屋市立大学病院）		2022/4/1-2023/3/31	研修期間を通して実施	3	看護師	医療人育成課臨床研修係
	CYBERDYNE社製HAL安全使用講習	ロボットリハビリ機器HALの安全使用講習	2022/8/18 2022/12/12 2023/3/20	3	3	理学療法士	リハビリテーション科・技術科
	中検勉強会（輸血検査）	FFPについて	2022/6/9	1	42	臨床検査技師・医師・看護師	臨床検査技師
	中検勉強会（一般検査）	採血合併症について	2022/7/14	1	41	臨床検査技師・医師・看護師	臨床検査技師
	中検勉強会	学会発表・論文投稿のための基礎知識	2022/8/5	1	39	臨床検査技師・医師・看護師	臨床検査技師
	中検勉強会（生理機能検査）	心電図の警戒値・パニック値	2022/8/18	1	73	臨床検査技師・医師・看護師	臨床検査技師
	中検勉強会（微生物検査）	菌血症と原因微生物について	2022/9/8	1	73	臨床検査技師・医師・看護師	臨床検査技師
	中検勉強会（病理検査）	肺がんの遺伝子検査について	2022/10/13	1	37	臨床検査技師・医師・看護師	臨床検査技師
	中検勉強会（検体検査）	針刺し・切創など血液・体液暴露時における対応について	2022/11/30	1	64	臨床検査技師・医師・看護師	臨床検査技師
	中検勉強会（微生物検査）	令和4年度国公私立大学病院医療技術職員研修に参加して	2022/12/22	1	65	臨床検査技師・医師・看護師	臨床検査技師
	中検勉強会（新規採用者より）	肺がん遺伝子検査「ｵﾝｺﾏｲﾝﾏﾙﾁとAmoyDxの比較検討」について	2023/1/19	1	49	臨床検査技師・医師・看護師	臨床検査技師
	中検勉強会（新規採用者より）	凝固検体の取り扱いと緊急検体業務中に遭遇する異常検体への対応について	2023/2/9	1	45	臨床検査技師・医師・看護師	臨床検査技師
	宿日直者研修	凝固APTT試薬変更について	2023/2/24-2/28	1	49	臨床検査技師・医師・看護師	臨床検査技師
	ISO15189	ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄﾚﾋﾞｭｰ会議	2023/3/27-3/31	1	64	臨床検査技師・医師・看護師	中央臨床検査部臨床検査技術科など
	中検勉強会（新規採用者より）	血液検査室で遭遇する細胞末梢血像・骨髄像について	2023/3/9	1	46	臨床検査技師・医師・看護師	臨床検査技師
	ISO15189	管理手順書変更について	2022/12/12-12/26	1	64	臨床検査技師・医師・看護師	中央臨床検査部臨床検査技術科など
	採血業務	採血に必要な基礎知識・採血管取り扱いと検査値への影響について	2022/1130-12/14	1	64	臨床検査技師・医師・看護師	臨床検査技師
	精度管理	外部精度管理報告会	2022/11/18-11/25	1	65	臨床検査技師・医師・看護師	臨床検査技師
	保険診療に関する講習会	第1回 ①診療報酬改定の状況報告 ②初診料・再診料加算額の変更について ③逆紹介の推進について ④正しい診療報酬点数算定のために ⑤医事課からのお知らせ 第2回 ①令和５年度の診療報酬改定について ②病名付記の必要性と留意点について ③その他	第1回：2022/9/28 第2回：2023/3/24	2回	第1回：157名 第2回：128名	全職種	医事課
	高度管理医療機器研修会	高度管理医療機器である高エネルギーX線発生装置（リニアック・トモセラピー・Radixact）と密封小線源放射線治療装置（RALS）における装置の特徴・安全使用及び故障や緊急時の対応	2022/4/27 2022/10/27	2回	4月研修参加者：31名 10月研修参加者：22名	診療放射線技師	放射線技術科
	人工呼吸器セミナー（V60）	V60の取り扱い・実技演習	2022/6/8 2022/9/8 2022/12/1	3	89	看護師	ME・看護部
	人工呼吸器セミナー（トリロジー）	トリロジーの取り扱い・実技演習	2022/5/30 2022/6/24 2022/7/20 2022/8/19 2022/9/21 2022/10/24 2022/11/14 2022/12/26 2023/1/18 2023/2/14 2023/3/9	11	369	看護師	ME・看護部
	がん看護ベーシックコース	がん看護の基本的知識の習得	2022/9/23 2022/10/2	2	19	看護師	看護部
	がん看護アドバンスコース（化学療法）	個別的ながん看護の実践	2022/11/6	1	15	看護師	看護部
	院内認定アドバンスフォローアップ	緩和ケア看護能力の確立	2023/1/30	1	4	看護師	看護部
②　業務の管理に関する研修の実施状況	児童虐待防止セミナー　第1回	e-ラーニング開催	2023/2/13-3/13	研修期間を通して実施	1264	－	地域医療連携室
	災害対策訓練	災害時の対応について	2023/3/20-4/3	1	65	臨床検査技師、医師、看護師など	病院
	危機管理研修会	重大事故報告など	2023/2/10-2023/3/3	1	67	臨床検査技師、医師、看護師など	病院
	医薬品安全管理研修会	麻薬の取り扱いについて	2022/7/4-7/30	1	67	臨床検査技師、医師、看護師など	病院
	令和4年度医療事故防止講演会	病院機能評価で求められる医療安全について	2022/8/10-9/13	1	65	臨床検査技師、医師、看護師など	病院
	BLS実習	BLSｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝなどについて	2022/12/1-2022-12/11	1	64	臨床検査技師、医師、看護師など	病院
	2022年度第2回感染対策講演会	CD感染について	2022/11/29-2023/1/13	1	64	臨床検査技師、医師、看護師など	病院
	2022年度第一回感染対策講演会	輸入感染症耐性菌ｽｸﾘｰﾆﾝｸﾞについて	2022/6/27-7/29	1	67	臨床検査技師、医師、看護師など	病院
	令和4年度ハラスメント研修会	ハラスメントの定義などについて	2022/10/14-11/30	1	65	臨床検査技師、医師、看護師など	病院
	2022年度国公私立大学病院医療技術関係職員研修	臨床検査技術者研修　微生物検査	2022/10/25-10/27	1	1	臨床検査技師	東京大学
	令和4年度倫理研修会	診療放射線の安全利用のための研修	2022/10/4-11/18	1	64	臨床検査技師、医師、看護師など	病院
	個人情報保護研修（eラーニング）		20203/1/18-2023/2/17	1	1423	全職種	医事課情報システム係
	情報セキュリティ研修（eラーニング）		2023/1/18-2023/2/17	1	1392	全職種	医事課情報システム係
	災害対策講演会（会場およびe-ラーニング）		2023/3/17 eラーニング： 2023/3/20-2023/4/3	1	937名 （3/17参加81名含む）	全職種	管理課
	コンプライアンス研修（e-ラーニング）		2022/12/14-2023/1/31	1	85	全職種	管理課
	ハラスメント研修会（Zoom）		2022/12/14 （当日参加できない場合には、後日録画での上映会を実施）	1	20	全職種	管理課
③　他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況	第13回桜山リハビリテーション研究会	圧迫骨折の治療、および痙縮のメカニズムと装具療法についての教育講演	2022/11/12	1	85	医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士	リハビリテーション科・技術科
	第14回桜山リハビリテーション研究会	高次脳機能のリハビリテーション、および包括的緩和ケアに関する教育講演	2023/2/25	1	54	医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士	リハビリテーション科・技術科
	臨地実習	中部大学4年生	2022-10/3-11/10	1	2	学生	中央臨床検査部臨床検査技術科

（様式第 5）

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	１．計画	２．現状
管理責任者氏名	病院長　　間瀬　光人	
管理担当者氏名	管理課長　徳永　智明	

			保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	管理課	処方箋、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、入院診療計画書等は電子カルテ内で一元管理している。平成16年以前の電子カルテ導入前の記録については、処方箋を除き病歴センターで保管している。 診療録等を持ち出す際は、データの暗号化や外部記録媒体の管理の徹底を行うようしている。 （「名古屋市立大学病院個人情報保護管理要領」等）
		各科診療日誌	電子カルテサーバー、過去分は病歴センター	
		処方せん	電子カルテサーバー、過去分は病歴センター	
		手術記録	電子カルテサーバー、過去分は病歴センター	
		看護記録	電子カルテサーバー、過去分は病歴センター	
		検査所見記録	電子カルテサーバー、過去分は病歴センター	
		エックス線写真	電子カルテサーバー、過去分は病歴センター	
		紹介状	電子カルテサーバー、過去分は病歴センター	
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	電子カルテサーバー、過去分は病歴センター	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二条の三第二項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	管理課、人事課	
		高度の医療の提供の実績	管理課、医事課、診療科等	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	管理課、医学研究推進課、診療科等	
		高度の医療の研修の実績	管理課、医療人育成課	
		閲覧実績	管理課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課、地域医療連携室	
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課、薬剤部	
	規則第一条の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部	

			保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部	
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部、医療安全管理部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部、医療安全管理部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	臨床工学室、医療安全管理部	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学室	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学室	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学室、医療安全管理部	

			保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部	
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部	
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部	
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	地域医療連携室	
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	管理課、医事課	
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部	
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部	
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部	
		監査委員会の設置状況	医療安全管理部	
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部	
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課 医療安全管理部 地域医療連携室	
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	監査室、医療安全管理部	
		職員研修の実施状況	人事課、管理課、医療人育成課、中央臨床検査部、中央放射線部、薬剤部、臨床工学室、医療安全管理部、感染制御部、臨床研究開発センター、看護部、医事課	
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	薬剤部 臨床工学室、医療安全管理部	
		管理者が有する権限に関する状況	人事課、財務課、管理課、経営課、医療人育成課	
		管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課、監査室、管理課	
		開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課、管理課	

（注）「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理

方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

（様式第6）

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1．計画	2．現状
閲覧責任者氏名	管理課長　徳永　智明	
閲覧担当者氏名	庶務係長　奥村　周悟	
閲覧の求めに応じる場所	管理課庶務係	
閲覧の手続の概要 記録の閲覧に関する責任者、担当者及び閲覧の求めに応じる場所を定め、閲覧の求めに応じる場所の入り口に掲示している。閲覧の求めがあった際は、閲覧責任者の許可のもと、閲覧担当者にて諸記録の公開を行う。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延　0　件
閲覧者別	医師	延　0　件
	歯科医師	延　0　件
	国	延　0　件
	地方公共団体	延　0　件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第１条の11第１項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

①　医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
・ 指針の主な内容：（別紙01を参照） 1. 医療機関における安全管理に関する基本的考え方 2. 安全管理委員会・その他の組織に関する基本的事項 3. 医療に係る安全管理のための職員研修に関する基本方針 4. 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 5. 医療事故等発生時の対応に関する基本方針 6. 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針 7. 患者からの相談への対応に関する基本方針 8. その他医療安全の推進のために必要な基本方針 9. 医療安全推進のための外部からの監査・評価に関する基本方針	
②　医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
・　設置の有無（　有・無　） ・　開催状況：年12回 ・　活動の主な内容：（別紙02を参照） (1) 医療事故の調査、分析及び再発防止策に関すること なお、特定機能病院である本院管理者が定める水準以上の事象（「医療事故発生時の対応」に定める＜報告すべき「医療事故」の定義＞に定める事象をいう。）が発生した場合の報告が適切に実施されているかを確認し、結果を本院管理者に報告する。報告が不十分な場合は報告が適切になされるよう研修・指導等を行う。 (2) 医療に係る安全管理のための職員研修及び広報に関すること (3) 医療事故等の公表に関すること (4) その他医療に係る安全管理に関すること	
③　医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年10回
・ 研修の内容（すべて）:（別紙03を参照） 新規採用者を対象に新規採用者研修会 中途採用者を対象に中途採用者研修会を年3回実施 医薬品管理研修会として麻薬講習会を年1回実施 全職員を対象に医療事故防止講演会及び倫理研修会を各年1回ずつ実施 重大事故事例の周知徹底を図る危機管理研修会を年1回実施 医師事務作業補助者を対象に医師事務作業補助者研修を年2回実施	
④　医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
・　医療機関内における事故報告等の整備　（　有・無　） ・　その他の改善のための方策の主な内容： ・リスクマネージメントマニュアルの定期的な見直し（追録・修正） ・安全管理に関する自己点検評価報告書の策定・まとめ ・事故収集による分析（定量および定性分析）・対策・実施 ・リスクマネージメントニュースの発行 ・eラーニングの実施 ・院内医療安全巡視 ・医療安全全国共同行動参加にてワーキング活動 ・暴力対策の実施	

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第１条の 11 第２項第１号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

①　院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
・ 指針の主な内容： 1　院内感染対策に関する基本的考え方 2　院内感染対策のための組織に関する基本事項 3　院内感染対策のための従事者に対する講習に関する基本方針 4　感染症の発生状況の報告に関する基本方針 5　感染発生時の対応に関する基本方針 6　院内感染防止に対する基本方針 7　患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 8　本指針の周知ならびに見直し及び改訂	
②　院内感染対策のための委員会の開催状況	年　12　回
・　活動の主な内容： 感染対策委員会は、院内における感染症の感染予防対策に関する次の事項について審議し、方針を決定する。 1　感染防止対策マニュアルの策定及び変更 2　全職員を対象とした感染防止教育と啓発 3　各職種、各部門の予防対策に関し、必要と思われる事項 4　職業感染予防の策定 5　院内感染発生時の改善策について病院職員への周知 6　その他院内感染に関する重要事項	
③　従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年　17　回
・　研修の内容（すべて）： 1. 院内感染対策講演会 第1回　6月27日～7月29日　eラーニング 「輸入感染症耐性菌スクリーニングの運用開始について」 「当院における第4波以降のCOVID-19診療状況」 第2回　11月15日　講演（11月21日～12月28日eラーニング） 「クロストリディオイデス・ディフィシル感染症up to date」 2. 抗菌薬適正使用支援講演会 第1回　6月27日～7月29日　eラーニング 「周術期予防抗菌薬の適正化～院内指針の見直しにむけて～」 第2回　2月14日～3月18日　eラーニング 「TDM（薬物血中濃度モニタリング）を実施する際に知っておいて欲しいポイント」 「抗菌薬適正使用から考えるクリニカルパス」 「カルバペネム、キノロンの適正使用」 3. 新規採用者研修 4月1日　講義「医療施設での感染症対策」「感染対策における微生物検査」 「抗菌薬適正使用」「院内感染予防策」「針刺し・血液曝露防止」「職員の健康管理」 個人防護具着脱演習 4. 中途採用者研修 8月19日、1月23日　講義「医療施設での感染症対策」「感染管理」 個人防護具の着脱・手洗い演習	

5. その他
①医師事務補助者研修
7月8日、2月17日　講義「医療施設での感染症対策」「感染管理」　手洗い演習

②環境整備・清掃担当者研修
10 月 11 日　10 月 17 日　講義「環境整備・清掃」　個人防護具着脱演習

6. NCU Infection Seminar
第72回　5月11日　「肺炎治療のこれからを考える～COVID-19時代の高齢者肺炎について～」
第73回　7月13日　「MRSA院内感染とToxic Shock Syndrome TTSにDIC治療は必要か？」
第74回　9月14日　「サイレントパンデミック時代の抗菌薬選択」
第75回　11月9日　「コロナ禍における呼吸器感染症ウイルスへの対応
～インフルエンザウイルスを中心に～」
第76回　1月11日　「改めて考える薬剤耐性とは」
第77回　3月8日　「重症感染症の治療・管理」

④　感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

・　病院における発生状況の報告等の整備　（ 有・無 ）

・　その他の改善のための方策の主な内容：
(1) 感染制御室を中心とした感染対策チーム（ICT）に、微生物検出状況、現場での感染症状を呈する患者の状況が報告される。ICTは横断的活動の権限をもって、状況確認、情報収集、対策の検討をし、現場へ適切な指導・助言をしている。
(2) 微生物カンファレンスや抗菌薬適正使用支援チーム（AST）により院内の分離菌発生と薬剤感受性の把握をし、耐性菌等に対する診療支援や感染対策の分析・検討をしている。2022年度の微生物カンファレンスは113件、血液培養カンファレンスは1178件行った。
(3) ASTは、抗菌薬の使用動向を監視し適正使用に向けた診療支援を行っており、2022年度は3718件のモニタリングを行った。
(4) ICTにより現場の環境ラウンドを実施（部署別ラウンド42部署、目的別ラウンド300部署）し、感染対策上の問題の早期改善に努めている。
(5) 感染対策や感染症診療・抗菌薬使用に関するコンサルテーションについて、医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師が対応し、診療支援や部署の感染対策の改善につなげている。2022年度は1672件に対応した。

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第１条の11第２項第２号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

①　医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
②　従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年3回
・　研修の主な内容：（別紙04を参照） 新人看護師向け薬剤研修会（2回） 　管理が必要な医薬品・与薬時の注意点・薬剤師による情報提供など 医薬品安全管理講習会（1回）e-ラーニングにて実施 　麻薬の管理と取り扱いについて	
③　医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・　手順書の作成　　（　有・無　） ・　手順書の内訳に基づく業務の主な内容： ＜医薬品適正使用状況確認の実施＞ 医薬品適正使用状況確認表を用いて、以下の項目について月１回、各部門において確認している。 ・施錠が必要な薬品の管理 ・部門定数薬の管理 （冷所保存薬および遮光保存薬の管理、定数薬の配置数、期限切れ医薬品および有効期限まで３ヶ月未満の医薬品の有無、定数薬以外の医薬品の有無、分割使用時の残液の管理など） ・冷蔵庫の温度確認 ・部門内の手指消毒薬の期限確認 ・安全性情報等の周知 ・医療従事者からの相談応需 ・有害事象・配合変化情報の収集などの具体例 ・医薬品に関する過誤事例の分析と再発防止	
④　医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・　医薬品に係る情報の収集の整備　　（　有・無　） ・　未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： ・有極細胞癌に対するティーエスワンの投与 ・腹膜中脾腫に対するニボルマブの投与 ・　その他の改善のための方策の主な内容： ・未承認等の医薬品使用の情報の共有 薬剤師の収集事例については、医薬品情報係が一元管理し、①一覧表への記載　②エビデンス評価　③診療科医師との協議　④評価部門事務局担当者（医療安全管理部所属の薬剤師：主査）への報告を行っている。	

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第１条の11第２項第３号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

①　医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
②　従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年216回
・　研修の主な内容：（別紙05を参照） ・人工心肺装置、人工呼吸器、閉鎖式保育器、診療用高エネルギー放射線発生装置等の特に安全使用に際して技術の習熟が必要と考えられる医療機器に関する職員に対する取扱研修 ・新規採用者及び中途採用者に対するシリンジポンプ、輸液ポンプ等の医療機器の取扱研修及び医療機器安全管理研修、職員に対する随時医療機器研修。	
③　医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・　医療機器に係る計画の策定　（　有・無　） ・　機器ごとの保守点検の主な内容： ・人工呼吸器、閉鎖式保育器等のMEセンター中央管理機器については、使用後MEセンターに返却の都度、もしくは一定の点検周期毎に、保守点検を実施している。 ・診療用高エネルギー放射線発生装置などの医療機器については、業者による定期点検を実施している。	
④　医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・　医療機器に係る情報の収集の整備　（　有・無　） ・　未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： ・金属ステント（Hot Axiosシステム）を用いた超音波内視鏡下胃空腸吻合術 ・　その他の改善のための方策の主な内容： ・医療機器に係るインシデント情報、メーカーからの安全性情報、医薬品医療機器総合機構から発進される情報等については、医療安全管理部へ一元的に集約され、同室及び臨床工学室が中心となり各部署への情報発信及び対策を実施している。 ・医療機器の安全使用の観点から、中央管理する機器については、標準化を図っている。 ・医療機器の使用に係る医療事故の発生を防ぐことを目的として作成した医療機器使用マニュアルの適宜見直しを行った。	

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第９条の２０の２第１項第１号から第１３号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無

・責任者の資格（医師・歯科医師）
・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況

医療安全管理責任者は、医療安全管理委員会委員長として委員会を運営し、病院全体の安全管理体制の確保の徹底を図るとともに、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の業務を統括し、安全管理に関する病院全体の責務を担う。

② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（ 9名）・無

③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況
・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況
医薬品情報係長（専任：医薬品安全管理実施担当者）１名および係員３名（兼任）にて定期的な情報収集及び発信を行っている。また、薬剤師が未承認等の医薬品の使用の可能性のある事例を収集した場合も医薬品情報係が一元管理し、①一覧表への記載　②エビデンス評価　③診療科医師との協議　④評価部門事務局担当者（医療安全管理部所属の薬剤師：主査）への報告を行っている。

・医薬品情報誌の発行：12 件
・医薬品に関する情報提供：34 件
・薬事委員会報告：3 件
・薬剤師が収集した未承認等の可能性のある事例：16 件
・院内有害事象報告（重篤既知あるいは未知事例：薬事委員会で報告）：1 件

・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況
担当部署として設置された医薬品・医療機器適応外使用等評価部門（以下、評価部門）が、診療科より申請された内容について確認の上、未承認新規医薬品等評価委員会に対し使用の適否等についての意見を求める。委員会からの意見を踏まえ、評価部門は使用の適否を決定し診療科に通知し病院長に報告する。実施状況については、適宜診療科より評価部門に報告され、評価部門がモニタリングを行う。

・担当者の指名の有無（有・無）
・担当者の所属・職種：
（所属：医薬品安全管理責任者，職種　薬剤師　）
（所属：医療機器安全管理責任者，職種　医師　）
（所属：臨床研究支援開発センター長，職種　医師　）
（所属：病院管理部長，職種　事務　）
（所属：副看護部長，職種　看護師　）

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無

・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無　（ 有・無 ）

・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：セーフティーマネージャーで構成された医療安全全国行動ワーキンググループにおいて、診療録の確認を行う、またインシデントが発生した際、同意書及び診療録にて遵守状況を確認し、該当部門へ個別に指導している。

⑤　診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無

・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：
　診療情報管理委員と診療情報管理士にてカルテの質的監査を実施している。監査は、「診療記録記載要綱」に基づき、診療記録の記載がされているか確認を行っている。監査結果は、診療情報管理士より診療科へ通知を行う。また、診療情報管理委員会において検討を行い、必要に応じて、委員長より診療科へ指導を行う。

⑥　医療安全管理部門の設置状況	有・無

・所属職員：専従（8）名、専任（2）名、兼任（5）名
　うち医師：専従（1）名、専任（　）名、兼任（5）名
　うち薬剤師：専従（1）名、専任（　）名、兼任（　）名
　うち看護師：専従（3）名、専任（　）名、兼任（　）名
（注）報告書を提出する年度の 10 月１日現在の員数を記入すること

・活動の主な内容：
　（１）医療安全管理委員会、セーフティーマネージャー会議等で用いられる資料及び議事録の作成、保存、その他安全管理委員会の庶務に関すること。
　（２）事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。
　（３）患者や家族への説明など事故発生時の対応状況について確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。
　（４）事故等の原因究明が適切に実施されていることを確認するとともに、必要な指導を行うこと。
　（５）医療安全に係る連絡調整に関すること。
　（６）その他医療安全対策の推進に関すること。

※　平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。
※　医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦　高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（9 件）、及び許可件数（8 件）

・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（　有・無　）

・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（　有・無　）

・活動の主な内容：
　・診療科の長から申請が行われた場合において、当該申請の内容を確認するとともに、申請案件の適否等について審査を行う。
　・審査により高難度新規医療技術の提供の適否について決定し、申請を行った診療科の長に対しその結果を通知し、病院長へ報告する。
　・高難度新規医療技術が適正な手続きに基づいて提供されていたかどうかに関し、定期的に、及び術後に患者が死亡した場合その他必要な場合には、診療録等の記載内容を確認する。
　・高難度新規医療技術が適正な手続きに基づいて提供されていたかどうか、従業者の遵守状況の確認を行う。

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（　有・無　）
・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（　有・無　）

⑧　未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（40 件）、及び許可件数（40 件）

・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（　有・無　）

・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（　有・無　）

・活動の主な内容：
　・診療科の長から申請が行われた場合又は薬剤師から未承認新規医薬品等の使用の報告を受けた場合において、当該申請又は報告の内容を確認するとともに、未承認新規医薬品等のリスク分類と審査要否の通り審査を行うか判断をし、未承認新規医薬品等評価委員会に対し使用の適否、使用条件等について意見を求める。
　・委員会が述べた意見を踏まえ、当該未承認新規医薬品等の提供の適否について決定し、申請を行った診療科の長に対しその結果を通知し、病院長へ報告する。
　・未承認新規医薬品等が適正な手続きに基づいて使用されていたかどうかに関し、定期的、及び患者が死亡した場合その他必要な場合に、申請者からの報告内容を確認する。
　・未承認新規医薬品等が適正な手続きに基づいて使用されていたかどうか、従業者の遵守状況の確認を行う。

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（　有・無　）

・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無　（　有・無　）

⑨　入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 353 件

・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 112 件

・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
　(1) 医療事故の調査、分析及び再発防止策に関すること
　　なお、特定機能病院である本院管理者が定める水準以上の事象（「医療事故発生時の対応」に定める＜報告すべき「医療事故」の定義＞に定める事象をいう。）が発生した場合の報告が適切に実施されているかを確認し、結果を本院管理者に報告する。報告が不十分な場合は報告が適切になされるよう研修・指導等を行う。
　(2) 医療に係る安全管理のための職員研修及び広報に関すること
　(3) 医療事故等の公表に関すること

⑩　他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

・他の特定機能病院等への立入り（　有（病院名：島根大学医学部附属病院）・無）

・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（　有（病院名：旭川医科大学病院）・無）

・技術的助言の実施状況
　患者確認方法を「患者名（フルネーム）」の確認から「患者名（フルネーム）と生年月日（または ID）」の 2 つの患者情報をもとに確認する方法へ変更した。

⑪　当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況
・体制の確保状況 　病院内に、医療安全管理室長を室長として「患者相談室」を設置し、医療内容についての心配や不安等の相談を相談員（看護師や社会福祉士）が受けている。

⑫　職員研修の実施状況
・研修の実施状況（別紙 03 を参照） 　新規採用者を対象に新規採用者研修会（R4.4.1、4）、中途採用者を対象に中途採用者研修会を年 3 回（R4.7.20、11.9、R5.2.22）実施 　医薬品管理研修会として麻薬講習会を年 1 回（R4.7.4～7.29）実施 　全職員を対象とした医療事故防止講演会（R4.8.10～9.13、10.13～11.4、11.17～12.9）及び倫理研修会（R5.3.6～3.31）を各年 1 回ずつ、重大事故事例の周知徹底を図る危機管理研修会を年 1 回（R5.2.10～3.3、3.9～3.20）実施 　医師事務作業補助者就業前の職員を対象に医師事務作業補助者研修を年 2 回（R4.7.1、R5.2.7）実施

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬　管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況
・研修の実施状況 管理者 ・令和 4 年 11 月 21 日　2022 年度特定機能病院管理者研修 （主催：公益財団法人日本医療機能評価機構） 医療安全管理責任者 ・令和 5 年 1 月 16 日　2022 年度特定機能病院管理者研修 （主催：公益財団法人日本医療機能評価機構） 医薬品安全管理責任者 ・令和 4 年 11 月 30 日　2022 年度特定機能病院管理者研修 （主催：公益財団法人日本医療機能評価機構） 医療機器安全管理責任者 ・令和 4 年 12 月 7 日　2022 年度特定機能病院管理者研修 （主催：公益財団法人日本医療機能評価機構）

（注）前年度の実績を記載すること

⑭医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況
・第三者による評価の受審状況 ・公益財団法人日本医療機能評価機構病院機能評価の認定「機能種別　一般病院３」３rdG:Ver.2.0 令和 5 年 8 月 18 日付け認定。 ・一般財団法人日本医療教育財団　外国人患者受入れ医療機関認証制度（JMIP） 令和 3 年 1 月 25 日付け認定 ・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況 名古屋市立大学病院 HP にて公表。

・評価を踏まえ講じた措置
　・病理診断報告書の既読件数および未読数を毎月集計し、毎月開催される病理診断部運営委員会、病院部長会および運営管理委員会にその情報を各診療科に提供し、未読の病理診断報告書を確認するように情報共有を実施した。
　・新規採用研修医の初期研修において、病理診断報告書の確認方法ならびに診断書確認後に確認ボタンを押す運用に関して、新たに研修内容を追加し実施した。

（注）記載時点の状況を記載すること

規則第７条の２の２第１項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
・ 基準の主な内容 １．人格が高潔で、学識が優れ、かつ、公立大学法人名古屋市立大学中期目標及び中期目標を達成するための計画である公立大学法人名古屋市立大学中期計画に掲げる事項について、継続的かつ確実に推進する姿勢及び指導力を有する者 ２．医療の安全の確保のために必要な資質及び能力を有する者であって、以下の基準を全て満たす者 (1)次のいずれかの業務に従事した経験がある者 イ)医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者又は医療機器安全管理責任者の業務 ロ)医療安全管理に関する委員会の構成員としての業務 ハ)医療安全管理に関する部門における業務 ニ)その他上記に準ずる業務 (2)医療安全管理業務経験を踏まえ、医療安全を第一に考える姿勢及び指導力等を有する者 ３．組織管理能力等の病院を管理運営するうえで必要な資質及び能力を有している者であって、当院又は当院に準ずる規模の他の病院において、病院長、副病院長、病院長補佐、診療科部長又は中央部門長（これらに準ずる職を含む。）の経験がある者 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ 有・無 ） ・ 公表の方法 ホームページにて公表 https://w3hosp.med.nagoya-cu.ac.jp/about/outline/byouinkinou/special-function/

規則第７条の３第１項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有・無
・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ 有・無 ） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ 有・無 ） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ 有・無 ） ・ 公表の方法 ホームページにて公表 https://w3hosp.med.nagoya-cu.ac.jp/about/outline/byouinkinou/special-function/	

管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由

氏名	所属	委員長 （○を付す）	選定理由	特別の関係

吉田　和生	名古屋市立大学理事・副学長(経営・キャンパス整備)	○	理事のうち理事長が指名した者（名古屋市立大学医学部附属病院、東部医療センター及び西部医療センター病院長候補者選考会議規程第３条第１項第１号による委員）	有・無
片岡　洋望	名古屋市立大学医学研究科副研究科長、消化器・代謝内科学教授 名古屋市立大学病院消化器内科部長		医学研究科教授会において構成員のうちから選出された者（名古屋市立大学医学部附属病院、東部医療センター及び西部医療センター病院長候補者選考会議規程第３条第１項第２号による委員）	有・無
松川　則之	名古屋市立大学医学研究科神経内科学教授 名古屋市立大学病院副病院長		病院部長会において構成員のうちから選出された者（名古屋市立大学医学部附属病院、東部医療センター及び西部医療センター病院長候補者選考会議規程第３条第１項第３号による委員）	有・無
後藤　るり子	名古屋市立大学医学部附属東部医療センター副病院長・看護部長		東部医療センター病院部長会において構成員のうちから選出された者（名古屋市立大学医学部附属病院、東部医療センター及び西部医療センター病院長候補者選考会議規程第３条第１項第４号による委員）	有・無
山本　あゆみ	名古屋市立大学医学部附属西部医療センター副病院長・看護部長		西部医療センター運営協議会において構成員のうちから選出された者（名古屋市立大学医学部附属病院、東部医療センター及び西部医療センター病院長候補者選考会議規程第３条第１項第５号による委員	有・無
服部　達哉	名古屋市医師会会長 本町クリニック・服部神経内科院長		理事長が委嘱する学外の有識者（名古屋市立大学医学部附属病院、東部医療センター及び西部医療センター病院長候補者選考会議規程第３条第１項第６号による委員）	有・無
岩崎　良平	日本ガイシ株式会社代表取締役副社長 名古屋市立大学病院医療安全管理委員会委員及び医療安全監査委員会委員		理事長が委嘱する学外の有識者（名古屋市立大学医学部附属病院、東部医療センター及び西部医療センター病院長候補者選考会議規程第３条第１項第６号による委員）	有・無

規則第９条の２３第１項及び第２項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	有・無

・合議体の主要な審議内容

（１）診療に関すること

（２）病院の規程の制定改廃に関すること

（３）病院の運営方針に関すること

（４）中期目標・中期計画に関すること

（５）予算及び決算に関すること

（６）その他病院の運営に関する重要事項

・審議の概要の従業者への周知状況

会議資料の回覧及び電子カルテ共有ファイルサーバーへの掲載を行っている。
必要があれば、個別案件ごとに関係委員会での報告や院内広報誌への掲載等も行い、周知徹底を図っている。

・合議体に係る内部規程の公表の有無（ 有・無 ）

・公表の方法

https://w3hosp.med.nagoya-cu.ac.jp/about/outline/byouinkinou/special-function/

・外部有識者からの意見聴取の有無（ 有・無 ）

合議体の委員名簿

氏名	委員長（〇を付す）	職種	役職
間瀬　光人	○	医師	病院長
森田　明理		医師	院長代行・副病院長
飯田　真介		医師	副病院長
明智　龍男		医師	副病院長
松川　則之		医師	副病院長
林　祐太郎		医師	副病院長
新実　彰男		医師	副病院長
戸澤　啓一		医師	副病院長
村田　佐知子		看護師	副病院長
瀧口　修司		医師	病院長補佐
遠山　竜也		医師	病院長補佐
瀬尾　由広		医師	病院長補佐
日比　陽子		薬剤師	病院長補佐
宮崎　景		医師	診療科部長
片岡　洋望		医師	診療科部長

藤原　圭		医師	診療科部長
難波　大夫		医師	診療科部長
田中　智洋		医師	診療科部長
濱野　高行		医師	診療科部長
奥田　勝裕		医師	診療科部長
須田　久雄		医師	診療科部長
近藤　知史		医師	診療科部長
村上　英樹		医師	診療科部長
杉浦　真弓		医師	診療科部長
齋藤　伸治		医師	診療科部長
安川　力		医師	診療科部長
岩﨑　真一		医師	診療科部長
鳥山　和宏		医師	診療科部長
安井　孝周		医師	診療科部長
樋渡　昭雄		医師	診療科部長
祖父江　和哉		医師	診療科部長
渋谷　恭之		歯科医師	診療科部長
笹野　寛		医師	診療科部長
服部　友紀		医師	診療科部長
植木　美乃		医師	診療科部長
岡本　秀貴		医師	診療科部長
井上　貴子		医師	中央部門部長
久保田　英嗣		医師	中央部門部長
髙橋　智		医師	中央部門部長
小松　弘和		医師	中央部門部長
佐藤　慎太郎		医師	中央部門部長
杉浦　健之		医師	中央部門部長
赤津　裕康		医師	中央部門部長
山岸　庸太		医師	中央部門部長
中村　敦		医師	中央部門部長
神谷　武		医師	中央部門部長
田中　基		医師	中央部門部長
野尻　俊輔		医師	中央部門部長
笠井　治昌		診療放射線技師	中央部門部長
山村　清佳		看護師	中央部門部長
田中　雅隆		事務	病院管理部長

規則第１５条の４第１項第１号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

・　管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（　有・無　）

・　公表の方法
ホームページにて公表
https://w3hosp.med.nagoya-cu.ac.jp/about/outline/byouinkinou/special-function/

・　規程の主な内容

(1) 病院長の人事権について
病院幹部の選任について院長代行、副病院長等、看護部長、診療科部長等の選考規程を制定し、各規程に基づいて選任している。開設者が公立大学法人である当院において、人事における任命権については、法人の長たる理事長が有しているが、病院長は選考の過程で関与する仕組みとなっており、病院長の意思が反映されている。

(2) 病院長の予算執行に係る権限について
規定により、病院の予算責任者である病院長が予算に基づき執行することとされている。

・　管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割

(1) 院長代行、副病院長及び病院長補佐
森田　明理院長代行
副病院長　（診療・医療体制強化担当）
飯田　真介副病院長　（がん治療重点化担当）
明智　龍男副病院長　（医療の質管理担当）
松川　則之副病院長　（研究担当）
林　祐太郎副病院長　（戦略企画・経営管理担当）
新実　彰男副病院長　（診療情報管理担当）
戸澤　啓一副病院長　（医療安全管理担当）
村田佐知子副病院長　（経営・業務管理担当）
瀧口　修司病院長補佐（手術機能強化担当）
遠山　竜也病院長補佐（労働環境担当）
瀬尾　由広病院長補佐（教育担当）
日比　陽子病院長補佐（保険診療（薬剤）担当）

(2) 各副病院長及び病院長補佐を補佐する企画スタッフ等
戦略企画室（収益向上策、費用削減策の企画立案等）
情報発信・広報戦略室（広報戦略立案等）
診療報酬マネジメント室（診療収入に係る分析、企画立案等）

(3) 外部有識者からの意見聴収の機会
経営協議会（病院経営に見識のある外部有識者を含めた
診療収入の確保及び経費の節減策など病院の経営改善会議）

・　病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

厚生労働省関係

研修開催日	研修名称	参加者	備考（主催）
2021/12/2	トップマネージメント研修「病院長として押さえておくべき、医師の働き方改革」	間瀬病院長	厚生労働省医政局医事課医師等医療従事者の働き方改革推進室
2022/1/31-3/11	医療機関におけるサイバーセキュリティ研修「大規模医療機関の経営層としてサイバーセキュリティ対策のために認識すべき事項を学ぶ」（e-learning研修）	間瀬病院長 森田副病院長	厚生労働省委託事業実施機関 有限責任監査法人トーマツ
2022/3/4	医療機関の働き方改革セミナー	事務課職員１名	厚生労働省委託事業実施機関 株式会社日本能率協会総合研究所

国立大学附属病院 病院長会議事務局主催研修

研修開催日	研修名称	参加者	備考（主催）
2022/8/26	令和４年度　第11回「国立大学附属病院契約実務担当者ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ	経営課職員１名	全国国立大学病院事務部長会議総務委員会
2022/9/8-9/9	令和４年度　国公立大学病院係長級研修	医療人育成課１名	全国国立大学病院事務部長会議総務委員会
2022/9/14-9/15	令和４年度　国公立大学病院一般職員研修	管理課職員１名	全国国立大学病院事務部長会議総務委員会
2022/10/2-10/28	令和４年度　国立大学病院医事関連業務ｽﾀｯﾌｾﾐﾅｰ	医事課職員１名	全国国立大学病院事務部長会議総務委員会
2022/11/25	令和４年度　国立大学病院医事系事務職員初期研修	医事課職員１名	全国国立大学病院事務部長会議総務委員会
2023/1/26	令和４年度大学病院等患者相談担当者研修会	地域医療連携室職員１名	全国国立大学病院事務部長会議総務委員会

規則第１５条の４第１項第２号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	有・無

・監査委員会の開催状況：年２回

・活動の主な内容：

1　医療安全に係る会議の運営状況

2　インシデント・アクシデントレポートの報告及び対応状況

3　医薬品安全管理・医療機器安全管理の実施状況

4　医療安全に係る研修の実施状況

5　医療監視等における監督官庁からの医療安全に係る指摘事項への対応状況

6　他の特定機能病院による立入検査の実施及び対応状況

7　その他、医療安全に関すること

・監査委員会の業務実施結果の公表の有無（　有・無　）

・委員名簿の公表の有無（　有・無　）

・委員の選定理由の公表の有無（　有・無　）

・監査委員会に係る内部規程の公表の有無（　有・無　）

・公表の方法：

病院ホームページにて公表している

https://w3hosp.med.nagoya-cu.ac.jp/section/central/anzen-kanri/externalauditor/

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長（○を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件該当状況
宮本　忠壽	知多厚生病院名誉院長	○	医療安全に関する業務に従事した経験を持つ医師	有・無	1
吉野　彩子	後藤・太田・立岡法律事務所所属弁護士		法律に関する識見を有する者	有・無	1
岩崎　良平	日本ガイシ株式会社代表取締役副社長		医療を受ける者の立場から意見を述べることができる者	有・無	2
蘆原　千晶	中日新聞記者		医療を受ける者の立場から意見を述べることができる者	有・無	2

（注）　「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第１５条の４第１項第３号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況
・体制の整備状況及び活動内容 法人にコンプライアンス推進室を設置し、法人の定める規程に適合することを確保するための体制その他業務の適正を確保するための体制として「内部統制システム」を整備し、内部統制が有効に機能していることを継続的に評価するための「モニタリング」を実施している。 モニタリングの結果は、事務局長を委員長とする内部統制委員会を年2回開催し、報告することとしている。 ・ 専門部署の設置の有無（ 有・無 ） ・ 内部規程の整備の有無（ 有・無 ） ・ 内部規程の公表の有無（ 有・無 ） ・ 公表の方法 病院及び大学のホームページにて公表 https://w3hosp.med.nagoya-cu.ac.jp/about/outline/byouinkinou/special-function/ https://www.nagoya-cu.ac.jp/about/operations/gyomu/

規則第１５条の４第１項第３号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況

・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況

理事長、副理事長及び理事（内2名外部理事）をもって構成される役員会において、次の事項の審議を行うこととされている。病院長も理事として、役員会に参加し、病院の管理運営状況について随時報告聴取が行われている。

(1) 中期目標についての意見（地方独立行政法人法第78条第3項の規定により市長に対し述べる意見をいう。）及び年度計画に関する事項
(2) 地方独立行政法人法により市長の認可又は承認を受けなければならない事項
(3) 予算の作成及び執行並びに決算に関する事項
(4) 大学、学部、学科その他の重要な組織の設置又は廃止に関する事項
(5) その他役員会が定める重要事項

・ 会議体の実施状況（　年 11 回　）

・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（　有・無　）（　年 7 回　）

・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（　有・無　）

・ 公表の方法
大学ホームページにて公開
http://www.nagoya-cu.ac.jp/about/operations/rules/index.html

病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：

会議体の委員名簿

氏名	所属	委員長（○を付す）	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

（注）　会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第１５条の４第１項第４号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（ 有・無 ） ・通報件数（年０件） ・窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（ 有・無 ） ・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（ 有・無 ） ・周知の方法 リスクマネージメントマニュアル、職員の心得及び電子カルテへ掲載し、周知している。

（様式第 7）

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1　果たしている役割に関する情報発信

①　果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無

・情報発信の方法、内容等の概要

【院外広報紙】

〇広報紙「さくらほっとＮＥＷＳ」を年４回発行し、当院の最新情報やお知らせを患者や地域の住民向けに発信している。広報誌は病院ウェブサイトにも掲載、また、院内の外来に設置したり、また院外（近隣病院、市内区役所等）に配布をしている。

【病院ウェブサイト等】

〇病院ウェブサイトや外来で放映している映像情報端末メディネットに、当院のご案内、最新のお知らせ、患者・一般向け、医療関係者向けの情報を掲載している。

2　複数の診療科が連携して対応に当たる体制

①　複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無

・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要

〇診療にあたる際、必要に応じて複数の診療科による合同のカンファランスを実施している。

〇全診療科の代表者を含む各種委員会を定期的に開催している。

〇複数の診療科によって組織する「センター」機能を有し、診療科ごとの特性を融合することにより、特色となる診療を実施したり、診療の支援業務や教育・研究業務などを行っている。

〇医療安全、感染、栄養サポート（NST）、褥瘡等に対して複数の診療科、職種を交えてチームを組み、対策を行っている。

〇診療連携拠点病院（肝疾患、地域がん）として都道府県における診療ネットワークの中心的な役割を果たす病院である。また、災害拠点病院として地域における災害医療を担っている。

〇救命救急センターとして24時間高度な医療が提供できるよう、全診療科及び全部門が連携して救急医療のバックアップ体制を整えている。夜間・休日においても、医師、看護師、薬剤師、診療放射線技師、検査技師が待機しており、常時迅速な引継が可能である。